

平成 1 7 年 度 第 7 回 定 例 会

## 八王子市教育委員会会議録

日 時 平成 1 7 年 7 月 2 0 日 ( 水 ) 午 後 2 時 0 0 分  
場 所 教 育 セ ン タ ー 3 階 第 3 研 修 室

# 第7回定例会議事日程

- 1 日 時 平成17年7月20日(水) 午後2時00分
- 2 場 所 教育センター 3階 第3研修室
- 3 会議に付すべき事件
  - 第1 第13号議案 八王子市公立学校長の処置の内申に関する事務処理の報告について
  - 第2 第14号議案 八王子市立学校教職員人事の内申に関する事務処理の報告について
  - 第3 第15号議案 叙勲及び賜杯候補者の推薦について
  - 第4 第16号議案 八王子市郷土資料館運営協議会委員の委嘱について
- 4 協 議 事 項
  - 平成17年度東京都教育委員会職員表彰候補者の推薦について
  - 平成18年度八王子市立中学校使用教科用図書採択について
- 5 報 告 事 項
  - 第59回八王子市民体育大会の開催について
  - 八王子市体育館条例施行規則の一部改正について

その他報告

---

八王子市教育委員会

出席委員（5名）

委員 長	（3番）	名取 龍藏
委員	（1番）	小田原 榮
委員	（2番）	細野 助博
委員	（4番）	齋藤 健児
委員	（5番）	石川 和昭

欠席委員（なし）

教育委員会事務局

教育 長（再掲）	石川 和昭
学校 教育部 長	坂本 誠
学校 教育部 参事 兼 指導室 長 事務 取扱 （教職員 人事・指導 担当）	岡本 昌己
教育 総務 課 長	望月 正人
学校 教育部 主幹 （企画 調整 担当）	鎌田 晴義
施設 整備 課 長	穂坂 敏明
学 事 課 長	小泉 和男
学校 教育部 主幹 （学区 等調整 担当 兼 特別 支援 教育・指導 事務 担当）	小海 清秀
指導 室 指導 主事	朴木 一史
生涯 学習 スポーツ 部長	菊谷 文男
生涯 学習 スポーツ 部 参事 （図書館 担当） 兼 図書館 長 事務 取扱	西野 栄男
生涯 学習 スポーツ 部 主幹 （企画 調整 担当） 兼 生涯 学習 総務 課 長	米山 満明
スポーツ 振興 課 長	山本 保仁
学習 支援 課 長	高橋 敏夫

文化財課長 佐藤 広

生涯学習スポーツ部主幹  
( 体育館 担当 ) 福田 隆一

生涯学習スポーツ部主幹  
( 図書館 担当 ) 柳 田 実

生涯学習スポーツ部主幹  
( 図書館 担当 ) 武 田 ヒサエ

生涯学習スポーツ部主幹  
( 図書館 担当 ) 石 井 里 実

生涯学習スポーツ部主幹  
( こども科学館 担当 ) 森 文 男

文化財課主査 土 井 義 文

中学校使用教科用図書検討委員会

委員長 川 口 法 正

委員 加 藤 重 義

委員 前 島 俊 寛

委員 前 田 辰 雄

委員 千々岩 保 任

委員 竹 野 周 而

委員 高 橋 啓 司

委員 假 屋 昭 敏

委員 五十嵐 孝 博

事務局職員出席者

教育総務課主査 志 萱 龍一郎

担当者 後 藤 浩 之

担当者 石 川 暢 人

【午後2時00分開会】

名取委員長 大変お待たせいたしました。本日の委員の出席は全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成17年度第7回定例会を開会いたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は 4番 齋藤健児委員 を指名いたします。

また、本日の議事日程第13号議案及び第15号議案並びに協議事項「平成17年度東京都教育委員会職員表彰候補者の推薦について」は、議案等の性質上、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項及び第7項の規定により非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

名取委員長 御異議ないものと認めます。

それでは、それ以外の案件について、日程に従いまして進行いたします。

名取委員長 日程第2、第14号議案 八王子市立学校教職員人事の内申に関する事務処理の報告についてを議題に供します。

本案について指導室から説明願います。

岡本学校教育部参事 第14号議案は、八王子市立学校教職員人事の内申に関する事務処理の報告についてでございます。

これにつきまして議案1枚めくっていただきますと、平成17年7月16日の発令の内申の表が出ております。これは、本市の松枝小学校の青木伸三校長が病気休職に入りました関係で、後任といたしまして、八王子市立清水小学校の副校長でありました小出茂樹副校長が松枝小学校の後任の校長といたしまして東京都教育委員会より発令がされたものでございます。また、小出副校長の昇任に伴いまして、清水小学校の副校長の後任といたしまして福生市立第三小学校の主幹の岡正純主幹が清水小学校の副校長として発令され、昇任したものでございます。これにつきまして、教育長の事務処理に基づきまして都のほうに内申を上げましたので、これについて御報告するものでございます。

以上でございます。

名取委員長 ただいま指導室の説明は終わりました。

本案について御質疑はございますか。御意見でも結構です。特によろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

名取委員長　それではお諮りいたします。ただいま議題となっております第14号議案については、提案説明のように承認することに異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

名取委員長　御異議ないものと認めます。

よって、第14号議案については、そのように決定することにいたしました。

名取委員長　次に、日程第4、第16号議案　八王子市郷土資料館運営協議会委員の委嘱についてを議題に供します。

本案について文化財課から説明願います。

佐藤文化財課長　それでは、土井主査から説明いたします。

土井文化財課主査　ただいま上程されました第16号議案について御説明申し上げます。

本案は、八王子市議会議員から選出されております2名の八王子市郷土資料館運営協議会委員につきまして、正副議長及び市議会常任委員会、議会運営委員会委員の改選に伴いまして、近藤充氏外1名の辞任を承認し、新たに陣内泰子氏外1名を適任と認め、八王子市郷土資料館運営協議会規則第2条の規定に基づきまして、平成17年8月1日付をもって委嘱しようとするものであります。

選任に当たりまして、八王子市議会から推薦をいただきまして、陣内泰子氏と多田寿美江氏を適任であると認めたものでございます。

何とぞ本案につきまして御同意くださいますようお願い申し上げます。

名取委員長　ただいま文化財課の説明は終わりました。

本案について御質疑はございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

本案について御意見もございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ほかに御意見もないようでありますので、お諮りいたします。

ただいま議題となっております第16号議案については、提案説明のように決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

名取委員長 御異議ないものと認めます。

よって、第16号議案については、そのように決定することにいたしました。

名取委員長 次に、協議事項、平成18年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択についてを議題に供します。

協議方法については、昨年度行った小学校使用教科用図書の採択と同様に次の方法で行いたいと思います。

協議は、種目ごとに検討委員会の報告説明を受け、それに関して質疑等を行い、当日予定している種目の協議終了後に各委員の無記名による意見集約をし、8月10日開催の第9回定例会の中でその各委員の選考結果に基づいて協議し、採択を行うようにしたいと思います。が、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

名取委員長 異議ないものと認めます。協議方法はそのようにいたします。

また、協議する種目については、本日が「数学」、「理科(第一分野・第二分野)」、「音楽(一般・器楽)」、「保健体育」、「技術・家庭(技術分野・家庭分野)」の8種目を、次回7月27日には「国語(国語・書写)」、「社会(地理・地図・歴史・公民)」、「美術」、「英語」の8種目を予定しております。

それでは、協議終了後に各委員の意見を集約するための記入用紙を配付ください。用紙は、8月10日の第9回定例会まで事務局において保管願います。

〔記入用紙配付〕

名取委員長 それでは、協議を始めます。

まず、「数学」について、検討委員会から報告願います。

川口検討委員長 検討委員会からの報告につきましては、各種目ごとそれぞれの調査部会の部長及び副部長から報告いたします。

加藤数学調査部会部長 それでは、調査研究報告書に基づきながら御報告させていただきます。

まず、「内容」から御報告させていただきます。

東京書籍。章の内容にふさわしい題材を使い、数学的な内容である。興味・関心を引く内

容の配慮があり、幅広く活用できる内容である。

大阪書籍。章によって、興味・関心を引く題材を使っているところと、そうでないところがある。写真やデータが関西中心である。

大日本図書。身近な題材を使った内容ではあるが、本編の内容と直接結びついていない。内容がやや高度である。

学校図書。章の内容にふさわしい題材ではあるが、興味・関心を引く内容ではなく、多くの生徒に対応しづらい面がある。

教育出版。章によって、興味・関心を引く題材を使っているところと、そうでないところがある。内容は標準的である。

啓林館(未来へひろがる)。身近な題材を使い、導入に関して配慮がなされており、その内容からスムーズに本編へと結びついている。内容が高度である。

啓林館(楽しさひろがる)。身近な題材を使い、導入に関して配慮がなされており、その内容からスムーズに本編へと結びついている。内容は標準的である。

2点目、「構成及び分量」についてです。

東京書籍。発展的内容の表示がよく、内容が豊富で、さまざまな単元で学習内容を深める工夫がある。3学年の配列に学習意欲を喚起する工夫がある。

大阪書籍。発展的な内容の記述は少ない。内容の配列は標準的である。

大日本図書。発展的内容が豊富であり、バランスよく取り上げられている。見開き2ページで1時間の授業構成になっていて、学習内容が把握しやすい。

学校図書。発展的内容が豊富であり、バランスよく取り上げられている。内容の配列は標準的である。授業からかけ離れている読み物が多い。

教育出版。1年の図形、2年の確率統計の内容で発展的な内容を多く扱っている。内容の配列は標準的である。基礎的な問題から発展に至るまでの段階的な問題が少ない。

啓林館(未来へひろがる)。発展的内容としての記述は少ない。2次方程式の解き方など数学的な手順による扱いが多く、数学的な考え方を深められる問題が多い。

啓林館(楽しさひろがる)。発展的内容の扱いは少ない。内容の配列は標準的である。分量が少なくドリル的である。数学的な考え方を深められる問題が多い。

3点目、「表記及び表現」です。

東京書籍。問題提起、例題、問題が整理されているので、わかりやすく使いやすい。公式

の表記に や などの記号を使うなど工夫されている。式、文章も簡潔で読みやすい。

大阪書籍。文字の大きさは適当である。単元の初めの写真がきれいだが、写真が少ない。1年の計算練習は工夫されているところがある。教科書端の空欄はない。ポイントとなる項目が目立つような工夫がない。

大日本図書。全体的に文字が多く小さく、例題、重要事項の区別がつけにくい。放物線を書くための方眼紙に工夫がある。右側に空欄があり、メモ等につけやすい。章末問題の答えが問題のすぐ後にあり、使いやすい。

学校図書。カラーがたくさんあり、見やすい。落下や斜面を転がる球の写真等、大きくて理解しやすい。重要項目が強調されている。左右のページに分ける工夫はある。

教育出版。写真がきれいで見やすい。例題、問題、重要事項が整理されていて見やすい。「学習のまとめ」で自分なりに振り返ることができるようになっている。直接書き込める部分が多い。

啓林館(未来へひろがる)。例題で項目に赤い色が塗ってあるなど、カラーがたくさん使われていて見やすい。例題と練習問題の区別がつきにくい。全体的に文字が多く難しい印象がある。 unnecessary カットが多い。「力をつけよう」は、生徒が自主的に取り組むのに効果的である。

啓林館(楽しさひろがる)。例題で項目に赤い色が塗ってあるなど、カラーがたくさん使われていて見やすい。「基本の確かめ」で学習を振り返るための工夫があるが、表記が詰まっている。

4点目、「使用上の便宜」。

東京書籍。「比例と反比例」の導入部分に工夫があり、課題発見・解決学習への広がり期待できる。各単元の内容の扱いはバランスがよい。

大阪書籍。生徒同士の活動が促せるような、考え方を整理しながら解決できる工夫がある。シンプルですっきりし過ぎているところがある。

大日本図書。導入部分では、質問内容がわかりやすく段取りがよい。既習内容のチェックが必要な箇所提示されていてよい。ページ数が多くて使いづらい。

学校図書。生徒の興味を引く問題や幾つかの解法を比べる場面があり、工夫されている。ゲームやイラストなどに工夫はあるが、授業では使いづらい。

教育出版。構成がよくわかり、生徒の操作的な活動を取り入れた問題が多く、興味を引き

出す工夫がある。変域のところで不等号の扱い方が丁寧である。

啓林館(未来へひろがる)、生徒の興味を引く問題が多い。練習問題のところにその学習を扱ったページの記載があり、工夫されている。問題解決学習に関するものが少ない。

啓林館(楽しさひろがる)、生徒の興味を引く問題が多い。練習問題のところにその学習を扱ったページの記載があり、工夫されている。単元の説明のバランスが悪い。

5点目、特に数学の調査項目の中で重点的に調査をした4点について述べてみたいと思います。

まず、東京書籍です。重点調査項目は、「1年 正の数・負の数の導入等」です。数直線上に移動によって加減を考える。乗法は、数直線の移動による考え方。

大阪書籍。(加法減法)数直線上の移動によって加減を考える。(乗法)数直線の移動による考え方 規則性でまとめる。

大日本図書。(加法減法)数直線上の移動によって加減を考える。(乗法)数直線の移動による考え方 規則性でまとめる。

学校図書。(加法減法)数直線上の移動によって加減を考える。(乗法)数直線の移動による考え方 規則性でまとめる。

教育出版。(加法減法)数直線上の移動によって加減を考える。(乗法)数直線の移動による考え方 規則性でまとめる。

啓林館(未来へひろがる)、(加法減法)演算の意味を定義し、導入している。(乗法)乗法の規則性で考える。

啓林館(楽しさひろがる)、(加法減法)数直線上の移動によって加減を考える。(乗法)乗法の規則性で考える。

重点調査項目2点目、「1年 図形的分野の内容」。

東京書籍。作図では理解しやすく、問題が豊富である。その後の学習へのつながりもスムーズである。

大阪書籍。平行線の定義の説明は、生徒の誤解を招くおそれがある表現である。空間図形の扱いが軽過ぎる。

大日本図書。扇形と円錐の表面積を求める問題が見開きでわかりやすい。平面図形において、三角形の決定条件をまとめていてわかりやすい。

学校図書。作図は理解しやすく、生徒の興味を引く問題がある。

教育出版。扇形と円錐の表面積を求める問題が見開きにあり、わかりやすい。生徒の興味を引く作図がある。

啓林館（未来へひろがる）。空間図形の扱いが軽い。

啓林館（楽しさひろがる）。空間図形の扱いが軽過ぎる。生徒の興味を引く作図がある。

重点項目3点目、「2年 証明の記述、進め方」。

東京書籍。1年生で習った作図を取り上げ、証明の有効性が理解できる。導入部分の証明の表現がその後の証明に役立ち、理解を助けている。

大阪書籍。例題が少なく難しい（例題に正三角形・直角二等辺三角形等特殊なものを取り上げている）。証明のとき、形式が一貫していない。

大日本図書。例題は文字が多くてやや難しく、題材の工夫がない。118ページから119ページ、「証明のしくみ」は理解を助ける。

学校図書。証明の書式が最初から一貫していて整理されている。

教育出版。三角形の決定条件を直接教科書に書いて発見できる。1年生で習った作図をまとめて取り上げ、証明の有用性が理解できる。

啓林館（未来へひろがる）。仮定結論について詳しく書いてある。証明で穴埋めの形の例題が少ない。1年生で習った作図を取り上げ、証明の有用性が理解できる。

啓林館（楽しさひろがる）。証明に記述が一貫して整理されていて理解しやすい。色分けする等工夫されている。96ページから99ページは流れがつかみやすい。

4点目、「3年 巻末にある、各単元にとらわれない内容や自由研究等」。

東京書籍。各章末の題材のほか、巻末に各単元の内容を超えた題材が問題形式で多数あるので、章の続きとしても扱える。

大阪書籍。各章末の題材のほかは、巻末に各単元の内容を超えた題材が3つある。問題形式では数は少ない。

大日本図書。各章末の題材のほかは、巻末にトピック的な内容の読み物が1つあるだけである。

学校図書。各章末の題材のほかは、巻末に各単元の内容を超えた題材が問題形式で多数あるが、各単元ごとに取り扱う傾向が強い。

教育出版。各章末にあるべき題材が巻末にまとまっている。単元を超えた題材はない。

啓林館（未来へひろがる）。各章末の題材のほかは、巻末にゲーム感覚的な内容とトピック

ス的な内容があり、工夫されている。

啓林館(楽しさひろがる)各章末の題材のほかは、巻末にゲーム感覚的な内容とトピック  
ス的な内容があり、工夫されている。

以上です。

名取委員長　ただいま検討委員会の報告が終わりました。

「数学」について御質疑はございますか。

小田原委員　時間がない中でいろいろ聞きたい部分が多いんですが、いろいろ聞いても聞き  
切れない部分があるから、あらかじめこの報告書をいただいたんです。ですから、ここに書  
いてある以外のことを実はお聞きしたかったんです。例えば、一番最初に東京書籍の「章の  
内容にふさわしい題材を使い、数学的な内容である」というのをそのまま読まれたわけなん  
ですが、各教科書、検定を通っている教科書の中で、東京書籍にはこういうことが書いてあ  
るけれども、では、そのほかの会社の教科書は「数学的な内容でない」というふうになるの  
かどうか。ここだけそういうふうに書いてあるのはどうしてなのかというようなことを説明  
してほしかったんですね。そういう部分は、あらゆるところに出てくるんです。例えば大阪  
書籍、「そうでないところがある。」「興味・関心を引く題材ではない」というのはどういうこ  
とを言うのか、そういうことを言ってほしかったんです。特に、この「内容」のところと言  
えば、ほかの教科書のほうは、東京書籍以外は、「数学的な内容でない」というふうになるん  
ですか。

加藤数学調査部会部長　ここに至るまでに数学の調査員というのを8名推薦して、そして調  
査部会を5回重ねてまいりました。また、各学校の数学の教科委員からも意見を寄せてもら  
っています。その中の最大公約数的なものをここに取り上げてあると、このように理解して  
いただきたいと思います。

細野委員　学力定着度調査を実施していますね。

加藤数学調査部会部長　はい。

細野委員　であれば、八王子の平均とか最低と最高が幾つぐらいになっているか、十分御承  
知ですよ。そういった背景があって、1つの教科書を選ぶということになるわけですがけれ  
ども、そのあたりの開きぐあいを十分お考えになって重点項目というのを選ばれたと私は思  
っています。そういったとき、ここにも書いてあるんだけれども、例えば「2年生の証明の  
記述、進め方」ですね。これ、とっても大事な話だと思うんですけども、ここでつまづく

生徒が多いということですよ。それで、1年生で習った作図を取り上げていて有効性があるだとか、いろいろ分析結果を書かれたと思うんです。それから「1年生の正の数・負の数導入等」、何でこれを重点項目にしたのかという話も、高校へ行ったときの属性の話とかそういうことにつながっていくと考えられているんだと思うんですね。そうすると、数学という科目がほかと比べて好き嫌いが出てきやすい科目だと思うんですけども、そういう観点から、なるべくわかりやすい記述をお願いしたかった。正直、この報告書のどこを読めばいいのか、まだよくわからないんですよ。まだちょっと腑に落ちないところがたくさんあるわけです。そのあたりを補足説明してほしいということですね。

加藤数学調査部会部長　なぜこれらを重点項目としたのかということですが、まず、「正の数・負の数の導入等」ですが、数学という科目のスタートの部分に、正の数・負の数が出てまいります。そうしたことから、3年間子どもたちにいるんな点で身につけていきたいということから、正の数・負の数については取り上げる必要があるんじゃないかということとで選ばせていただきました。

それから、「図形的分野の内容」についてですけども、図形的分野は子どもたちにとってつまずきやすいところなんですね。数学の計算のほうは好きだけでも、図形のところでちょっとつまずくというようなことで、そういうところを丁寧に扱っているところ、また、子どもたちがスムーズに入れる、そんなところから選択しました。

それから、さらに進んで、2年生に行って子どもたちがつまずくところが、図形の証明なんです。ゆえに、図形の証明も外せないだろうということで3点目の重点項目に挙げました。

それから、4点目は3年生ですけども、「巻末にある、各単元にとらわれない内容や自由研究等」ということで、3年間のまとめをしながら、さらに足りないところを補いながら、さらに上級の学校へ進んでいく。そんな発展的なものを扱っているのかどうか、そういうような視点から選択しました。

それからあと、我々が調査にあたる上での最初の申し合わせのようなものなんです、八王子には子どもたちが1万数千人います。その中で地域的にも格差がある。そういうところから、教科書はさまざまな点で子どもたちが取り組めるような、また自主学習もできるような、そういった観点から調査を行ってまいりました。

もう一点、調査委員が8人で、5回の集まりがあったわけですけども、それではやはり全体の先生方の意見を集約したことにはならないだろうということから、各学校から寄せ

られた意見を参考にしながらもこの調査報告書を作成しております。

名取委員長　　よろしいですか。

細野委員　　重点項目の1番目と2番目、1年生と2年生の図形の話なんですけれども、2年生の「証明の記述」のところで、図形の証明でつまづく生徒が多いと書いてあるわけです。それで、例えば啓林館（楽しさひろがる）を見てみますと、「証明の記述、進め方」はとてもいいというふうに評価が高いんですけども、1年生の「図形的分野の内容」については、空間図形の扱いが軽いとある。このあたりとのバランスをどういうふうに考えているのかということが1点。もう1つは、啓林館（未来へひろがる）の、重点項目「正の数・負の数の導入等」というやつなんですけれども、ここでは加法減法について演算の意味を定義して導入しているとあって、ほかの会社は数直線での移動と書いてあるんですね。このあたりの違いは何なのかというのが2点目。そういう評価をしてほしいんですよ。皆さんは専門家でいらっしゃるんだから、そのあたりのお考えを聞かせてほしいんです。それで、どのような記述の仕方だと中学校の子どもたちに数学というものを覚えてもらえるのか。そうすれば、学力定着度評価で平均点がこんなに学校によって違うなんていうことが少しはなくなるんじゃないか、そのあたりの提言が欲しいんですね。

加藤数学調査部会部長　　2点目の加法減法については、報告書に書いてあるように教科書によって大差はありません。啓林館（未来へひろがる）の演算というのは、加法減法、乗法除法含めたいろいろな計算を含めて演算と言っています。啓林館（未来へひろがる）の記述はそういった意味からほかと違った形にしました。ほかの会社については加減を考えているということです。

細野委員　　本質上の違いはないということですか、それは。

加藤数学調査部会部長　　そうですね、このところでは大差はないです。

細野委員　　もう1つ、先ほどの話ですけど、啓林館は証明のところでかなり体系的に記述されている。私も読んでそう思いました。ということは、啓林館（未来へひろがる）は、例えばかなり高度な教科書となるのか、あるいはほかの教科書と違っているんだとか、そのあたりどうなんでしょうか。

小田原委員　　関連してなんですけど、それは私が先ほど言った一番上の「内容」のところに出てくると思うんですけども、啓林館の場合には、2冊ありますけれども、（未来へひろがる）のほうは「高度である」と言っている。一方で、（楽しさひろがる）のほうは「標準的で

ある」と言っている。では、その高度と標準の差というのはどこにあるのか。教育出版も内容は「標準」だとなっている。そうすると、この教育出版の「標準」と啓林館（未来へひろがる）の「高度」、その差はどうなっているのか。その辺、下のほうの説明もそれに関連してくるんだけど、そこがわからない。

前島数学調査部会副部長　先ほど部長のほうから話がありましたように、私どもがまとめた集約は、市内38校の先生方、教科書を使っている先生方がごらんになったものの集約も若干入っています。その中で、教科書を使う教師の側が教科書を開いてみてどういう印象を持つかということも1つはあるわけです。それと同時に、調査委員会のほうでは、印象だけではなくて、内容について分析しなければならない。そういった中で、例えば啓林館の場合でいきますと、私が見ても教科書の技術は基本的にはほとんど同じでございます。ただ、どこが違うかといいますと、（楽しさひろがる）と（未来へひろがる）の違いは、今ある正の数・負の数の説明の部分でいいますと、（未来へひろがる）のほうが端的に言えばより丁寧に扱っているといえます。ページ数も多くあります。一方で、（楽しさひろがる）の場合は、比較するとわりとずっと流れている感じの部分があります。教科書を選定する場合、本市の生徒の実態に合わせて、どの教科書が一番ふさわしいかということが常に念頭にありますから、そういう意味でいいますと、その教科書がレベル的にどうなのかということは見る必要があるだろうと。そんなことから、あくまでも他と比べた場合、「高度」ではないかということで、表記として「標準的」ということと「高度」というふうに記述がなされてきていると考えております。

小田原委員　それは、私の見方と違うんですが、今、おそらく言い間違いがあったと思うんですけども、（楽しさひろがる）のほうは、例えば加法という言葉を使わないで、足すという言い方になっているんですね。そこがまず違う。それから、その後の説明は、（楽しさひろがる）のほうがずっと流しているという言い方をしたけれども、正の数・負の数のところでは確かに違う。それから、あと違うところは、どこが違うかというと、章末の問題数があるかないかだけなんですよね。あとは同じです。それをもって、「高度」というのと「標準的」となるのかどうなのかということなんです。教育出版のところにも「標準的」と言っていますが、そうすると、（楽しさひろがる）と同じなのかどうなのかと。啓林館の（未来へひろがる）の「高度」と違うのかどうかというところを聞いたわけで、これ以上聞いてもその後の答えは返ってこないと思いますから、この件はいいです。

あと、細野さんの言っていることについては、答えがあるべきだと思うんだけどね。

細野委員　私が聞いたかったのは、どういった観点で教科書を選ぶのかということです。下のほうに合わせるのか、あるいは中くらいのところに合わせるのかというような話で、いろいろな選択の仕方があると思うんですが、そのあたりはどうお考えですか。

前島数学調査部会副部長　教科書の構成、項目について見ますと、基本的には3年生の教科書以外は全社同じ項目、流れになっております。3年生になると、基本的に因数分解などの計算分野から平方根へという流れがあるんですが、東京書籍だけ平方根を先にやって因数分解へと他社と違った流れをしています。そういった例外はありますが、生徒にとってみれば、基本的にはどの教科書も全く同じで、あとは教員の授業力というんでしょうか、指導の方法によって幾らでも展開ができるというふうなことだろうと思っております。また、見た目とか、中身のいろんな表記、表現の問題等につきまして、今扱っている業者の側とうまくフィットするか、フィットしていないかという非常に感覚的な問題がありますけれども、そんなこともかなりこの中には入っていると考えていいと思っております。

細野委員　もう1ついいですか。皆さんご専門だからお聞きしたいんですけども、数学を学ぶときというのは問題の数、それから例題の数、どちらのほうが多いほうがいいんですか。

加藤数学調査部会部長　それは一概には言えないところがあるかと思えます。今、確かな学力というようなことを言われておりますし、やはり教科書にバランスよく例題なり問題数が掲載されてあって、それをもとに子どもたちのほうへの定着を図っていくというのが自然な形かなと、このようにとらえています。

細野委員　では、例題の数が一番多かった教科書は何ですか。

加藤数学調査部会部長　申し訳ありません。数は調べておりません。

齋藤委員　先生方、長時間かけて調査研究、御苦勞様でございます。何点かちょっと私も質問させていただこうと思ったんですが、委員長のほうから最初に説明があったとおり、この5人でこれから八王子が使う教科書を採択していくわけですが、その順番として、この報告書は事前に私たちいただいているわけなんです。ですから、当然、まず自分たちですべての教科書を読んだわけです。それで、この報告書を当然よく熟読して、そしてきょう先生方からお話を聞いて、それで決定していこうという順序になるわけで、やはり私も、小田原先生、細野先生がおっしゃっていましたが、ここに書いてあることをずっと読み上げていくのではなくて、これから後の教科の先生方もいらっしゃると思えますが、これから先の

話をきょう深く聞きたかったというのが本音としてあります。

1つの例として1年生の「正の数・負の数の導入等」というのは、やはり私もこれは導入として大変重要なところだろうと思って興味深く読みました。そんな中で、例えば学校図書だけが正と負の数を2章に分けて取り扱っている。一番具体的に取り扱っているなという感覚があったんですね。あと、啓林館（未来へひろがる）の中にあったんですけども、これが私、数学嫌いにさせちゃっている1つの大きな理由なのかなと思った文章として、「5個少ないは、マイナス5個多いことだ」って書いてあるんですよね。これは日本語の説明として非常に変な文章だなと思ったんですね。こういうようなところを比べて、いい悪いというところをちょっと教えていただければ、すごく参考になるかなという感じはするんですけども。

先ほど、3年生の平方根の取り扱いについて、東京書籍だけが最初に取り上げているということのご説明がありましたが、おそらくこれ、意見が割れたらと私も思ったんですね。先生方にとっては、この導入の仕方がいいのか悪いのか。それで、最終的にこの委員会としてはどういう結論にしたのかなというのが非常に興味があって、きょうお聞きできるかなと思ったんです。

あと最後に、お答えいただけたらというふうに思うんですが、先ほどから、「内容がやや高度である」とか「標準的である」とかいう話が出ているんですが、私なんかは、これからの八王子のレベルというのをやはり高度なところに目標を置いていけたらいいなというふうには個人的には思っているんですが、その辺り八王子の先生方はどうお考えになっているのか。例えば大日本図書では「内容がやや高度である」とありますが、であればどうなのか。「高度である」ことがいいのか悪いのかがわからないんですよね。大日本図書が一番ページ数が多くて、非常に内容も充実しているなというふうな感じは少しして、では先生方の意見はどうなんだろうと思って見ると、「内容がやや高度である」とあるだけなんです。だからどうなんだというのが欲しかったですね。今の八王子のレベルというのをどういうふうに導いていって、どのあたりに置かれているのかなというところをちょっと教えていただけますか。

前島数学調査部会副部長　少し補足的な部分もありますが、実際、学校の中で数学の指導をしている教諭の話を聞きますと、以前からそうなんですが、学力テストというんですか、評価テストをします。そうしますと、結果は大概、上位のグループ、下位のグループと二山になるんですね。その原因は、中学校に始まったことじゃなくて、もう既に小学校のほうから

算数になかなかうまくなじめなくて、さらに数学という学問の入り口に入ってきた部分で抵抗を感じていくということもあると考えるんです。二山の部分をいかにフラットに戻すかということと同時に、やはり学習にまだまだ定着しない生徒に対してどうやって上のほうに持っていくか。そこら辺を含めて教科書をベースにしながらいろんな工夫をしているのが学校の現状でございます。そういう中で、最近は一山じゃなくて3つの山ができ始めたよという話もちろちら聞くようになってきております。そんな中で、「高度」という今の表現の部分でいきますと、例えばこの教科書を提示したときに、果たして下位の子たちがどれだけ飛びついてその教科書になじんでいけるかどうかとなると、厳しいだろうなというような表現の裏側に多分あるんじゃないだろうかというのが私どもの感想でございます。

齋藤委員     ありがとうございます。もう1点教えてください。先ほど細野先生がおっしゃった例題だとか問題というのは、私もちょっと興味深く見たんですけども、やはり大日本図書あたりは相当たくさん問題を取り上げていると思ったわけですね。「表記及び表現」のところで、「章末問題の答えが問題のすぐ後ろにあり、使いやすい」という言い方があるんですが、章末の問題のすぐ裏に解答が出てくるのは、確かに大日本図書だけなんですよね。逆に、教育出版などは、章の問題の解答が、どこに書いてあるのかよくわからない。先生方としては、こういった練習問題とか、生徒たちは当然予習とか復習があると思うんですが、解答がすぐ近くにあったほうがやはり生徒たちのためにいいと思われませんか。

加藤数学調査部会部長     この点につきましても、一概に言えないところがあるかもしれないですね。あまり身につけてないような子というのは、それを逆に頼りにし過ぎたりしますし、また、力のある子なんかは、考える時間を多くとって見ないようにしますし。

細野委員     先ほど、学力テストの結果が、二山が今度3つの山になったというお話がありましたよね。そうすると皆さんは、どこに照準を合わせたような教科書というのが現場の教育指導という意味では望ましいのかと、そのあたりのお話を少ししてほしいんです。

前島数学調査部会副部長     基本的に数学の授業を私がしてきたときもそうなんですけれども、やはり基本的には全体の中心をベースにしながら授業を進めていくと同時に、やはり個に応じた対応を授業でどうするかということが問われているわけです。以前はただ教えれば良いということだったんですが、今は一人一人の生徒をどう見ながら、上位者に対してはどのような提示の仕方をしていく、下位者に対してはどのようなフォローをしていくというふうなことを常に授業の中で対応しなきゃいけない。ただ、授業そのものは、やはり中位の子たちに対

してしっかり理解されるような授業の組み立て方、指導の仕方は、今でもそれは変わらない  
と思っております。

細野委員 この報告書の中の調査観点1から4、それから重点調査項目5の(1)から(4)  
までありますよね。どこに重点を置いて我々に読んでくれというようなことを少しお話しし  
ていただけますか。

加藤数学調査部会部長 どういう観点をもとにこの中から選択するかということですね。副  
部長がお話ししましたように、やはり数学についていけない子も多くいるし、反面、力のあ  
る子もいるわけですが、そういった中で基本的には、ただ考えさせるだけではなかなか身に  
つかないところもありますので、やはり最低限必要な問題等は偏りなくバランスよく網羅さ  
れている必要があるかと思えます。やはり、子どもたちに考えさせていくという意味から、  
そういった教科書が選択されていくことが望ましいのではないかと、このようにとらえてい  
ます。

細野委員 それを聞いているんではありません。調査の観点のどこを重点的に我々に見て欲  
しいのか。特にこの項目が我々の主張したいことなんだと、それを言ってくださればいいん  
ですよ。

小田原委員 そうしたら全部ですというふうに言うと思いますよ。あと、あわせて聞きたい  
んですが、例えば、小学校なんかでは、教材とかプリントを有効に使っていたり、あるいは、  
算数でTT加配を有効に使っているんですよ。そういう部分の工夫は多分中学でもやって  
いると思うんだけど、そのときに、この教科書とこういうものとの関係とかでいけばこ  
このところを見てほしいと、そういうような言い方ができればしていただきたい。

前島数学調査部会副部長 先ほどの質問にお答えしますが、(1)から(4)までの重点項目  
の選択の理由ですが、(1)から(3)までは、中学に入ってから多くの生徒がつまずいてい  
くところだろうと想定される部分を調査項目に入れました。それから、(4)につきましては、  
上級学校に耐え得るようなある程度きちんとした学力を身につける必要があるだろうとい  
うことから、3年生の巻末のまとめの部分を項目に入れました。委員さんには、この重点項目  
をしっかりベースに置いた上での判断をしていただければありがたいと思っております。

小田原委員 そういうお答えですと、やはり1年生の「正の数・負の数の導入等」のところ  
の書き方というのは、どんな題材を使っているのかとかいう、その答えとしては極めて不適切  
な表現だと思いますよ。それから、大日本図書(4)のところで、「読み物が1つあるだけで

ある」というふうにまとめているけれども、大日本は巻末に「数学の森」という読み物があるんですけども、それがこの(4)で指摘しているものだとは僕は見ていたんですよ。だけど、報告書の記述をみると、どうやらこれ違うみたいなんですよ。それで、この報告書を見て判断してくださいと言ったって、果たして本当に判断していいのかと、首をひねらざるを得ない。そうしたらどうしたらいいんですかね。

加藤数学調査部会部長　先ほど来、八王子の特性をここに挙げていますけれども、今言ったところの4点の重点項目は、実際に指導に当たっている教員のほうの意見もここに多く取り上げています。ですので、そんなところを酌んでいただきながら最終的に選択をしていただければと、このように思います。

石川教育長　数学というのは一番習熟に差が出る教科だと思うんですけども、先ほど多少お答えらしきものも見えているんですが、多くは、これ、原則は一斉指導が原則でしょうか、それを念頭に多分答えられているんだらうと思いますけれども、しかし、学級定員が問題になったり、いろんな授業形態があって、今後、さまざまな形の授業がなされていくんだらうと思うんですね。そこに子どもたちの上か下かでの実態がある。そういう子どもたちに対してどの教科書ならみんなに対応できるのか、ここに「標準」って書いてあるものならそれでいいのか、「高度」というのはだめなのか、その辺のところをもう少しはっきり言っていたらありがたいんですけどね。

加藤数学調査部会部長　「高度」というのは、先ほどの説明にあったかと思いますが、やはり本市の子どもたちの授業に使うものについては少し偏り過ぎているんじゃないかなと、こういう意味でとらえてほしいと思います。それとあと、「標準的」というのは、ここでは、教育出版とか啓林館について「標準」と報告していますが、あくまでもほかと比較したときでありまして、相対的なものについての意見をここに述べたつもりでございます。だから、その中にいろんな表現でどれがというようなものはここに出てきているかなと、このようにとらえていただければと思います。

名取委員長　大体よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

名取委員長　ほかに御質疑もないようであります。

それでは、次の種目に移ります。

「理科(第一分野)」について、検討委員会から報告願います。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　それでは、調査研究報告書に基づきながら御報告いたします。

先ほど教育委員の皆様方から一応報告書はお目を通されているとお話がありましたので、かいつまんで補足説明等させていただきます。もしこのやり方でおかしければ、途中でお声をかけていただければと思います。第一分野・第二分野とかなり共通しております。

第1分野、「内容」です。横に行きながら補足説明させていただきます。

東京書籍。発達段階に則しております。非常に説明・図等が理解をしやすいと、そういう面があります。

大日本図書です。希ガス等、興味・関心を出しているものもあります。全体的に高める工夫があります。

学校図書は、第一印象は取りつきにくいんですけども、興味・関心を引き出す工夫もされております。

教育出版のほうですが、興味・関心を引き出すけど、もうちょっと丁寧だったらいいかなという部分があります。

啓林館のほうは、流れが「なぜ～なのか」「～できるかな」と、そういうような一つの流れがあった、そういうような特徴を持っております。

「構成及び分量」。

東京書籍です。他社と違ってエネルギーという独立の単元が入っております。ここは少し特徴のあるところですが。全体的には図や解説などが多い。基本の事項が整理しやすいという特徴があります。

大日本図書です。こちらもかなり興味・関心を高めるようなものはあります。発展的なものも取り入れておりますが、一部、もうちょっと説明があればいいかなというところもあります。

学校図書です。こちらも、現行のもの比べると詳しいものがあります。ただ、もうちょっと新しいもの、発展的な教材があればいいかなという印象を受けております。

教育出版です。単元によってちょっとばらつきがありますが、これは否定的な意味ではありません。いい意味ですね。もう少しここをふやしていればいいかなと、そういうような面があります。基礎操作の記述にばらつきがある。これも、ほかのところは丁寧なんだけど、ここももうちょっと丁寧だったらいいかなと、そういう意味であります。

啓林館のほうは、単元のまとめ等があって、一応確認できるような構成と分量になっています。

「表記及び表現」。

東京書籍から言います。こちらはそれほど大きな差はありませんが、多少見た目という印象がありますが、東京書籍はイラストや図が大きくて、理解しやすいようになっている。

大日本図書は、写真などを使って工夫がある。

学校図書です。「写真の提示に難がある」というのは、もうちょっといいものがあっていいかな、授業で使いやすいかなと、そういうような意味です。

教育出版です。こちら「最初の写真が粗い」というのは、初めの部分ですね。もう少し丁寧なピントが合ったような写真があればいいかなと、そういう意味です。

啓林館のほうは特徴がありまして、寸法がほかと比べると大きいです。A4よりもサイズが大きいです。ここが特徴的です。

「使用上の便宜」。

東京書籍からです。こちらは資料も多い。自由研究の課題等が多く、十分かなというところでは。

大日本図書。1時間1時間の授業を意識してつくられている。実験にも配慮されているというところでは。

学校図書です。「レイアウトや印刷面で難があり」とありますけれど、こちらならいいんですが、少し配置などにもうちょっと工夫があったらいいのではないかなというようにことを受けとめております。

教育出版。発展的なものは読み物が多いんですが、もうちょっと自分たちで自発的にできるものがあればいいかなと感じました。

啓林館のほうですが、こちらのほうは「予想してみよう」とか「考えてみよう」、こういった工夫があります。

次に「重点項目」です。重点項目を、理科部の中で5つ設定いたしました。

1点目。「観察・実験のしやすさ」です。これは理科の授業の指導の中でかなり重要な位置を示しております。やはり実験・観察をできるだけ多く設定して、子どもたちに生のもの、本物と触れさせて、そこから感動とか新たな発見、そういったものを見つけてほしいと。そ

ういう意味で実験・観察を重点項目としております。もちろん、50分の中でちゃんとできるという、そういうような視点でも比べました。

次に2点目。「資料」ですが、写真・図・グラフです。先ほどちょっと写真のことをお話ししました。なぜ写真にこだわっているのかというと、例えば1つの写真で50分授業ができます。この写真を見て何かを考えてほしい、だから、写真というのは1枚1枚大事にしたいんです。そういう面で、少しピントの甘い写真などは、もう少しあったらいいなと、そういうふうに思っています。写真だけではありませんけれども、モデルとか図、そういったものがより子どもたちにわかりやすくつくられているかと、そういう視点で比較の中では重点項目に挙げました。

3点目は、「日常生活との関連性」です。なぜ理科を学ぶのか。身近なところに理科の世界がいっぱいあるよと。そういうものを学んでほしいためには、やはり教科書の中にも今学んでいるところは実際の生活のどこと関係しているのか、日常生活の中のどの部分と密接に関係しているかというのに触れてあれば、なぜ今この部分を学んで、それがどう役に立つかというのが子どもたちにも浸透していくと。そういう面で重点項目としております。

4点目。「基礎・基本」、これはほかの教科とも同じだと思いますが、それぞれの教科のスキルがあります。理科の場合も、例えば研究の操作とか、ガスバーナーの使い方とか、逆に薬品の片づけ方とか、そういったものも入っておりますが、それ以外に基礎・基本、これは学習指導要領にも載っておりますけれども、その中でよりわかりやすく、復習とか家庭学習できるか、そのような視点で重点項目に挙げました。

最後の重点項目は「発展学習」です。これは現状やはり理科離れが起こっている。大変残念なことだと思っております。理科教育として大変危機感を持っております。そういう中で、少し内容が高校に行った分、少し教科書の扱う内容が少なくなった。でも、私たち理科の教員の中では少し発展のところを子どもたちに伝えたい。以前、教科書に載っていたけれど、今はなくなっている。こういったものを紹介したい。これにつきましては、各社とも工夫しております。そういうところがどれくらいあるかと、そういうところで見えておりました。

この5つの視点で東京書籍さんのほうから横に簡単に行きますと、「重点項目」、東京書籍は、「教材について新たな購入が必要なものが」というのは、そんなに多くありません。1つか2つですね、買わなければいけないものがあると、そういう意味です。

大日本図書さんのほうは、配慮があるが、ばらつきがあると記述させていただきました。

これも支障はありませんが、もう少し使いやすい薬品があったらいいのではないかなと、そのような視点です。

学校図書のほうは、危険防止の配慮が少ないとありますが、これは、もう少し、「注意」というような、例えば記述が特に危ないところの実験のところであればいいなと。そうすると、我々はそれについてちゃんと指導もできるということなのです。

教育出版の「安全性にも配慮があるが、不適切と思われる実験もある」って、これはちょっと難し過ぎるのがあるのじゃないかと。これはとりあえず1つだったんですけど、ちょっと中学校のレベルじゃなかった。説明が必要なものですから、そういう意味で不適切という意味です。レベルが高いという意味ですね。

啓林館さんのほうは、わかりやすいかなと。

あと、東京書籍の「資料の活用のしやすさ」ですが、「資料集の購入が不必要である」ということでございます。東京書籍は資料が盛りだくさんですので、資料集がなくても構わない。ただ、理科のほうとしては、社会科と同じだと思いますが、資料集は大体普通は購入いたします。それは、教科書に足りない部分を補充するのと、発展的な面もあります。ただ、東京書籍はわりと盛りだくさんなので、なくても対応できるかなという意味での報告です。

大日本図書のほうは、発展的なイオンについての説明など、イメージを持つものが結構わかりやすい。理科の場合は見えない部分をたくさん扱いますので、見えない部分をイメージとして、モデルといたしますけれども、扱うとわりと理解しやすい部分があります。

学校図書のほうは、もうちょっと工夫があるといいかなという思いがあります。

教育出版も同じです。

啓林館のほうは、教科書によっていわゆる付録がついているのがあります。星座表とか赤いゼロファンとか原子のカード、シール、これ、あればいいというものではありませんが、一つの特徴ですね。

重点項目3点目、「日常生活との関連性」については、それほど大きな差はなかったと思います。

重点項目4点目、「基礎・基本の身に付けやすさ」、こちらのほうも、多少練習問題がもう少しあればいいかなというものもありますけれども、最低必要なラインは確保できているとご報告いたします。

重点項目の最後、「発展学習」ですね。こちらのほうも、多少数が多いのと、ちょっと少な

いのがありますが、現実的には何とか対応できるのではないかと考えております。

大日本図書の「見づらい写真がある」というのは、先ほど言ったとおりですね。もうちょっといい写真があれば、より説明がしやすいかなというようなところですよ。

啓林館の「指導すべき内容と離れているものもある」というのは、少しレベルが高いという意味です。そういう面で少し負担をかけるものも一部あるかなと思いました。

第一分野は以上でございます。引き続き、第二分野に行きます。

第二分野も第一分野とそれほど変わっておりません。ただ、第一分野が物理・化学、第二分野が地学・生物系ということなので、ちょっと身近な部分が第二分野には多いかなというところですよ。

東京書籍の「内容」行きます。第一分野と大体同じ評価です。発達段階に則しております。

大日本図書の「岩石で身近にあるもの」というのは、八王子のものや教科書に載っている岩石はちょっと色が違うので、説明をしなければいけないと、そういう意味です。

学校図書も発達段階に則した内容となっております。

教育出版に「丁寧でない部分」とあります。もう少し丁寧であればベターであるかなというところですよ。

「構成及び分量」に行きます。

東京書籍。イメージがつかみやすく、基礎も整理されていると考えます。

大日本図書。「配列に無理がある」とありますが、順番が入れかわっても支障があるということではありません。ただ、一部入れ替えたほうがいいのではないかなというところがあったということです。

学校図書ですが、全体的にみて新しい資料が欲しい。少し古いものが一部あるというところですね。そういうところで新しいものがあればいいかなと感じました。写真とかデータが若干古いのがあるのかなというところですよ。

教育出版も、「ばらつきがある」というのは、単元によって多少多い、少ないのはあってもやむを得ないかなと思っております。順番が指導要領の順番と異なることがあっても、特段支障はありません。

啓林館は、まとめや補充的学習を行うためのページが増えており、学習の定着に配慮されています。

続いて、「表記及び表現」について行きます。

東京書籍。全体的にイラストとか写真が掲載されている。

大日本図書は、動物の写真がくすみがちで、もう少しはっきりした写真があればいいかなと感じました。

学校図書は、説明が詳しくされております。ただ反面、文字数が多いのかなという感じも受けられます。

教育出版は、レイアウトが工夫されていて、見やすい。

啓林館は、写真が非常にいいと感じました。

続けて、「使用上の便宜」に参ります。

東京書籍は、実験のところでフローチャートが縦列に配置されていて全体構成が見渡せるよう配慮されています。これは1つ、やりやすいかなというところがあります。

大日本図書もまとまりがあります。自由研究などがわりと豊かであると感じました。

学校図書は、レイアウトなどにももう少し工夫があったらいいかなというところがあります。

教育出版。八王子の資料が一部載っております。これはとてもいいなと感じました。やはり我がまち八王子が取り上げられるというのは、誇りも感じるし、あとは子どもたちの興味・意欲などもより増すのではないかなと思っています。

啓林館にも、八王子の写真や図が載っております。

最後に、「重点項目」です。項目は第一分野と同じになります。

まず、重点項目1点目、「観察実験のしやすさ」です。

東京書籍は第一分野と大体同じ評価になります。

大日本図書は、もう少し安全面で配慮が欲しいところは一部分あると感じられます。

学校図書も、危険防止の配慮が他社と比べて不足している感がありました。

教育出版は、逆に、安全性の配慮はありますが、取り上げている実験の数が多いということもあるんですが、不適切と思われる実験がある感じがしました。

啓林館は、観察・実験のしやすさでは、図が見やすく解説が丁寧であるという感じを持ちました。

2点目の「資料(写真・図・グラフ)の活用のしやすさ」です。

東京書籍は、新たな資料集の購入が不必要なほど、活用しやすい内容となっております。

大日本図書は、スケッチの数が少ない。これは、その部分、写真があるというところで、写真で代用しています。

学校図書は、もう少し写真や図などが大きいとやりやすいかなという感じがあります。

教育出版は、見にくいところもありますが、支障はありません。

啓林館は、わりと写真はよくできていると思います。

続けて、3点目、「日常生活との関連性」に行きます。

東京書籍、わりと引き出しやすいと。

大日本図書は関連したものもあって、学校図書は、今使っている東京書籍のものとそれほど大差はありません。

教育出版は、関連性を意識している。

また、啓林館は、「科学の広場」で充実を図っているというところです。

4点目、「基礎・基本」のところは、東京書籍は、わりと学力的な面で身につけやすいものがある。

大日本図書は、大事な光合成のところはもう少し説明があったほうがいいのではないかと思います。

学校図書は、自習する場合にはいいと感じました。

教育出版は、少々基礎操作的なもので工夫があるといいかなというところです。

啓林館は、復習が用意されています。

あと最後、5点目、「発展学習」ですけれども、東京書籍は幾つか用意してあり充実しています。

大日本図書も用意はされていますが、ばらつきがあるという感じがあります。多い、少ないというような意味で、そのあたりが工夫されればいいかなというところです。

学校図書は、わりと基礎・基本の方が多い。発展は、ゼロではないんですが、もう少し盛り込めればいいなというところです。

教育出版も、もう少し学習内容と結びつける工夫が欲しい部分がありました。

啓林館は、若干高度なものも扱っている、そのような内容でした。

とりあえずよろしいでしょうか。

名取委員長　前田副部長から第一・第二分野について御説明がありましたけれども、分けて質問をお願いしたいと思います。

まず、理科（第一分野）について御質疑ございますか。

齋藤委員　どうも御苦労さまでございます。これはどの教科にも同じような質問になってし

まうかもしれませんが、特にこの理科などは5社ということで出版社が多いですね。それで、この報告書を読んでいますと、私の読み方がいけないのか、同じ方が書いているのではなくて、何人が複数の方が報告書をまとめているのではないかというふうに感じたところがあったんですね。つまり、何を聞きたいかという、これからの採択の方法等を考えたときも、時間的なことや、先生方もいろいろお忙しい中、調査・報告していると思うんですが、すべての委員の方々がすべての本を皆さん読む時間があつたのだろうか。私は、ある先生方が出版社を分けて読まれたんじゃないかなというような感じがちょっとしたんです。これは私の読み取り間違いでしょうか。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　お答えします。正直なところ、読む時間は多くありませんでした。その中でも、我々委員のほうで特定の会社に偏りなく見ております。だれが何回見たかというのはちょっと控えておりませんが、偏りなく見たということをお伝えしておきます。報告書の表現がそういう誤解を招く面があつたかもしれませんが、偏ることなく見ております。

細野委員　重点項目が5つありますよね。先生も先ほどおっしゃられたように理科離れが非常にあるということでした。そういった中で、理科に対して興味を持ってもらう、そういう工夫が一番あつたというのは、これではどこというふうに認識されていますか。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　特にここをというところはなく、工夫されている部分は随所にございます。その中で、例えば写真とかモデルですね。どんな写真を使っているか、わかりにくいものをいかにわかりやすくモデルとして出しているか、そして、重点項目の中に入っておりますが、実験がどれくらいそろっているかと、そのようなところだと思っています。

細野委員　そうしますと、先ほど写真とかイラストで、実際に自分で実験とかそういうものをしなくても、イラストとか写真を見れば大理解できるよというような、そういう工夫がなされているのか、それとも、実際にこれはやらなきゃいけないのか。そのあたりは授業時間数の制約もあると思いますので、この実験はやって、この実験は要らないとか、そういう優先順位をつくると思うんですね。そのあたりのバランスがとれているのかどうか、それが1点です。

もう1つお聞きしたいのは、第一分野は物理と化学を扱うんだと思いますが、そのあたりのバランスのよさなんていうものは、どのような形でとらえていらっしゃるでしょうか。先ほど、

実験とモデルというふうにおっしゃった。そうすると、例えば、ある教科書は物理のモデルよりも、化学の実験のほうを主にしているとか、そういうところのバランスのよさ、また、化学のほうは実験のほうモデルよりもずっと記述が適切な写真とか実験の仕方が書いてあるとか、物理のほうには方程式とかグラフとか、そういうバランスのよさというのはどうかということをお聞きしたいんです。それが2番目です。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　　まず初めの御質問ですけれども、写真があればいいということではありません。写真をもとに調べてみようという気持ち、知的好奇心をくすぐる、そういったものがあると非常にいいという意味であって、写真を見ればそれだけでよいということは考えておりません。モデルについては、先ほど申し上げたように、わかりにくいものがあるので、少し色をつけたりわかりやすくすると子どもたちはよく理解できるのかなと思っております。

2点目のほうですけれども、物理と化学のバランスは会社によって、50対50というわけではなく、多少の差はあると思います。ただ、具体的にどれがいいかというのは検証しておりませんが、例えば、物理が多ければいい、化学が多ければいいということは考えておりませんので、この辺は制作会社の方針によるのかなとは思っています。

小田原委員　　関連なんですけど、第一分野においては、物理のほうは圧倒的に多いというふうに言えるんじゃないですか。原子・分子の部分と運動と力のところからエネルギーに移って化学変化に持っていくところ、それ以外は物理というふうに言っていると思うんですね。どちらが多いほうがいいかというのは何とも言えない部分があるんだけど、そういう中で、この報告の中でももう少し工夫があればいいなと思うのは、もう少し丁寧であつたらいいという話になるわけですが、あるところでは「実験」で、別のところでは「実習」であつたり、「観察」であつたり、そういうような形で報告がなされているわけです。言葉が違っても、実験が実習になったり観察になったりしている。特にそれが第二分野では強くなるわけですが、逆に、工夫しないで、丁寧でないほうがむしろ子どもたちのためになるということが言えるのではないかと思ったりもするわけです。というのは、子どもたちが実際に実験したり観察したものをレポートにするのではなくて、教科書が充実していると、教科書に出ている実験とか写真を見ながらレポートをつくってしまう。そういうような子どもたちが結構いる。そうすると、教科書が理科離れを防ぐ、あるいは興味・関心を抱かせるということにできていながら逆効果になっているというふうにも思われるんですが、そこら辺、どうな

んですかね。

前田理科(第一・第二)調査部会副部長　　初めに物理・化学等の量的なものをおっしゃっていましたが、調査委員会の中では調べておりませんけれども、東京都教育委員会のほうの調べによりますと、第一分野では、物理的な内容・化学的なものは52対48。第二分野のほうでは、生物が54に対して地学は46というような数字が出ております。そういう面で、数字的には、物理と生物のほうが多いというデータがあります。あと、実験のほうですが、確かにおっしゃるように、下手に小細工しないほうがいいということも確かにあると思いますが、理科の教員は、それぞれの子どもたちの実態に則して、うちの学校の生徒はこういうところが少し足りないから、この部分を肉づけしてあげようということもあれば、ここだけはもう一回やってみようということもある。前回は説明したけれど、また今回も説明していこうと、さまざまあると思いますから、それぞれで工夫はしていると思います。

小田原委員　　もう少し細かいことをお聞きするんですが、例えば「使用上の便宜」のところ  
で「全体構成が一目で見渡せるよう」になっているという、その「全体構成が一目で見渡せる」とは具体的にどういうことをいうんですか。

前田理科(第一・第二)調査部会副部長　　一目見たときに、第1章から第何章まであって、  
どういった項目を学習するのか、ページをめくっていくと、第1章にはこういう単元があっ  
て、また後ろのほうには丁寧な作品があるとか、そういったものです。

小田原委員　　それは、内容等そういう部分、子どもたちにとって大きく作用するんですか。

前田理科(第一・第二)調査部会副部長　　例えばふだんの授業ではそれほどないかもしれま  
せんが、やはりどの学校も復習に力を入れていると思います。そういう中で「教科書の中で  
ここを開いてごらん」といったときに、わりとすぐ開ける。お子さんによっては、こういう  
ことを言ってもいいかわかりませんが、やはり細かいものがあつたほうが使いやすいと  
いうお子さんもいらっしゃるので、想像になりますが、こういうのがあるとわりと家庭もす  
んなり学習もするのではないかなと考えます。

小田原委員　　私だけ大変申しわけないけれども、もう1つよろしいですか。東京書籍で、「教  
材について新たな購入が必要なものがある」ということで、1つか2つ買わなければいけな  
いものがあるというような言い方だったんだけど、具体的にどういうものなんでしょう  
か。

前田理科(第一・第二)調査部会副部長　　東京書籍だけ例に挙げて申しわけないんですけど、

例えば、ペルチエ素子というのがあるんですね。エネルギーの移り変わりの実験を調べるところで、ペルチエ素子というのがあります。これは普通ちょっと置いてないものですから、新たに購入しなければいけないということです。値段はわかりませんが、これはどの学校も置いてないので、例えばこういうものが必要になってくるということなんです。

小田原委員 必要であるならば、教育委員会は買わなきゃいけないわけですが、では、ここで指摘するほどの装置なのか、実験器具なのかということが知りたいんですね。ほかのところは触れてないわけですから、そんなのなくてもいいということなのかどうなのか。そういうことなんです。それで、これは先ほど齋藤さんが指摘したように、こういう指摘がここだけに出てくると、これが要素なのかどうかというふうになりますよね。そうすると、教科書を先生方がみんな読んでいないからこういうことが出てくるんじゃないかという、そういう疑問につながっていくわけです。また、それぞれの中に「現行の教科書と大差ない」と出てきますが、現行の教科書というのは何を言っているかというのがわからないですね。今使っている教科書会社の現行の教科書なのか。それが学校図書の報告の中にも出てくればほかの出版社にも出てくるので、何をもち現行の教科書とっているのか、そこも教えてください。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長 ペルチエ素子が備わっていないなら器具なのかどうなのかという、なくても支障はありません。調査員全員が学校に備わっていない器具として、これを出したという意味です。お話がありましたが、調査委員会の中でみんなそろって特に必要なものがあつたかというところで聞いたところ、その中で全員「ペルチエ素子というのはないよ」というように出ておりますから、一応、委員の中でもこれを挙げられた。これはないという意味であります。

それと、現行の教科書というのは、現在の東京書籍と比べてです。使っている教科書は東京書籍ですから、それをもとに比較しているということです。

細野委員 最後にお聞かせいただきたいんですけど、御自分でお読みになってどれが一番楽しい教科書でしたか。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長 まず、楽しいという基準では選んでおりません。やはり八王子の子どもたちにとってどれだけ、基礎的なものが身につくか。理科部の中では理科嫌いが防げるか、理科離れが防げるか、そういうような視点で検討をしたつもりです。

細野委員 それを聞きたいんです。むしろ、それを聞いているんです。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　　幾つか候補には挙がっておりますけれども、特にこの会社というふうには発言は控えたいと思いますが、5社ありましたけれども、その中の幾つかについては、総合的に判断して複数の会社が挙がっております。各委員、また市内の先生方の意見をまとめて、少ない時間でしたけれども、それなりに一生懸命頑張っ、子どもたちの理科離れを防げるような教科書を探しました。

細野委員　　ここの記述の中のどこを見ればわかりますか。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　　読み取っていただければありがたいと思います。

名取委員長　　その辺も考慮して、委員の先生方、よろしくお願いします。

　　ちょっと時間が押しているので、申しわけありません。第二分野について御質疑ございますか。

細野委員　　地学の分野があると思うんだけど、地震の問題、記述が一番充実していたのはどこかな。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　　申し訳ありません。今すぐ答えられませんが、わりと新しいショッキングな写真などを載せて、それで逆に地震に対する準備をしなければいけないと、そういうような気持ちを持たせるような写真が幾つかありました。そういうところを評価していただければ出版会社もありがたいと思うんじゃないでしょうか。

名取委員長　　ほかに。

齋藤委員　　第一分野・第二分野、別々の会社から選ぶ、例えば第一分野はA社、第二分野はB社というような選び方、もちろんそういうふうに見えるようになっているんですが、仮に別々になってしまっても、先生方が教えるのにそれは非常に不便だということがあるのか、別にそれは関係ないのか、そのあたりの御意見をお聞きしたいんですが。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　　指導者側というよりも子どもたちの立場からお答えさせていただきますが、子どもたちにとっては、やはり同じ教科書会社のほうが扱いやすいと思います。

齋藤委員　　先生方はどうなんでしょう。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　　教員のほうは、選んでいただければ、それに対応できる力があると思います。

齋藤委員　　少し気になった、大日本図書の扱っている第二分野の実験なんです、報告書にも「安全性についてもう少し配慮が必要である」という記述があったんですが、私もこの実

験で大丈夫かなと思いました。手にコンパスか何かで刺して感覚を見ようというような実験が載っていたんですね。下巻の139ページです。このあたりはどうなんですか。私は「えっ」というふうな感じでは受けとめましたが、このあたりはどうなんでしょう。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　私どももチェックしておりますけれども、これはあまりよくないなと思いました。圧力などは鉛筆を使って多少刺すというのではありません、これは許容範囲内かなと思いますが、小学校でもそうだと思うんですが、やはりコンパスの針を体に刺すというような指導はしていないと思います。したがって、その延長として、私どももこれについてはチェックが入りましたが、もう少し別の方法がいいのではないかなという印象を受けております。

齋藤委員　　すいません、ここは私も専門の分野なものですから、重箱の隅をつつくような話で申し訳ないんですが、第二分野の最初のところで野草の写真をどの会社もみんな取り上げていますよね。このところで春の七草を取り上げている会社は何社かあるんですが、これ、非常に間違いやすいのが、春の七草のホトケノザというのは、実はコオニタピラコだというのを、これをちゃんと説明しているのは学校図書だけなんですよ。ほかは、全体的にはいい教科書だとは思っているんですけど、この部分は説明されてないんですよ。この野草あたりというのはあまり重要なところではないのかもしれませんが、私は結構このあたりが気になってしょうがなかった、東京書籍なんかも非常にいい教科書だと思ったんですが、この春の七草については、少し誤解されるような書き方だなというのは感じました。そんな話は調査部会のほうから出ませんでしたか。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　　野草に関しては、そこまでの議論にはなりません。ただ、おっしゃったように、野草を得意とされている教員も市内にはたくさんおりますので、やはりこのあたりは重点的に取り扱っている先生もいると思います。そういう面では、今おっしゃったように多少差があったかもしれません。

名取委員長　　ほかにかがでしょうか。よろしいですか。

小田原委員　　細かいことなだけけれども、例えば単元の並び方は大体同じなんですけれども、中で、例えば岩石、先ほど岩石の話が出ましたけれども、火成から堆積に入って地層に行くという並び方がいいのか、火成、地層、堆積というふうに行くのがいいのか、これも分かれてくるんですけれども、こういうのは教え方でどちらがいいかとかいうようなことというのは言えるんでしょうか。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　地層、堆積というような方向かなと思います。このあたりの単元は地層、火山、地震という3つの大きな単元がありますけれども、会社によって3通りの順番があります。正確に言うと4通りですね。それでも、順番が違うから問題になるわけではないんですが、自然の流れとしては、地層があって堆積と、そういうふうな流れかなと思います。

名取委員長　よろしいですか。

石川教育長　理科離れというふうな話がありましたけれども、理科はやはり子どもたちの興味・関心を引くというのはすごく大事なことで、やっぱり演示したり実験したりすることが非常に重要だと思いますけれども、実験等をどの教科書会社もほとんど同じような内容のものを扱っているのかどうか。特徴的なところがあるのかどうか。いわば現場の実態からして、そんなに実験を載せられても授業時数が不足をされていてなかなかできないから少ないほうがいいというような、そんなことがあるのか、ちょっと実態を踏まえてどの辺のところが適当なのか教えてください。現場の実態を踏まえて、今度の新しい教科書は本市の生徒にとってどの辺のところが適当なのかどうか。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　実験の数ですが、これは東京都の資料ですけども、第一分野では、大日本図書が最も多く42載っております。続けて、学校図書、東京書籍が大体同じぐらいですね。第二分野のほうは、教育出版が30載せてあります。続けて学校図書となります。5社の観察・実験・実習の平均は第一分野は37個くらい。第二分野のほうは平均がおよそ27個。正直、これらを授業のなかで全部やることは厳しいと思います。出版社によって、これは必須ですよという実験もあれば、これは努力目標ですよと、表記上そのように使い分けているところもあります。我々はそれを見ながらやりますけれども、先ほど申し上げたように、基礎・基本にかかわる実験というのは絶対やらなければなりませんので、これは必ずやります。全部やることは厳しいけれども、その中でこれは絶対にやらなければいけない、そういうものは欠かさず、時間をかけてでもやります。ただ、先ほど申し上げたように努力目標として位置付けられている実験もあるので、それは学校でゆとりがあったときにやると、そういうふうになっていると思います。

名取委員長　ほかに。

前田理科（第一・第二）調査部会副部長　1つ私のほうから申し訳ありません。先ほど、教員にとって第一分野、第二分野それぞれの教科書会社が違うとどうなのかというご質問です

が、教員も多分同じ会社のほうがやりやすいのではないかなと思います。補足させていただきます。

名取委員長　では、ほかに御質疑もないようでありますので、次の種目に移らせていただきます。

「音楽（一般）」について、検討委員会から報告願います。

千々岩音楽調査部会部長　音楽（一般）のほうから御報告をさせていただきます。

名取委員長　では、部長、どうぞ。

千々岩音楽調査部会部長　音楽は一般と器楽があるわけですが、私たちは、音楽一般、器楽とも、同じ内容で3つの重点項目を設けて調査を進めてまいりました。

まず、音楽（一般）のほうからですが、2社しかありません。音楽の教科書ですので、大部分を楽譜が占めております。そこで、写真、挿絵などを使って両社がそれぞれいろいろ工夫をしております。楽譜の見やすさや写真などを使いまして視覚に訴えるところにいろいろ工夫が見られますので、それらを比較しまして、まず1つ目の重点項目に「レイアウト」というものを持ってまいりました。それから2つ目は、教科書そのものが指導しやすく生徒にとって興味・関心を引くような選曲・構成になっているかということで、「選曲・構成」というものを2つ目の重点項目といたしました。それから3つ目は、楽曲の解説や説明などの工夫が、生徒にとっていかにわかりやすく理解しやすく工夫されているかということで、「解説」というものを3つ目の重点項目といたしました。

そして、調査部員のほうからいろいろ意見を伺い、それを取りまとめたものがその報告書でございますけれども、まず、重点項目の1点目、「レイアウト」ですが、レイアウトのほうには昔の教科書と違いまして、今の音楽の教科書というのは非常に写真をたくさん使っておりますので、視覚に訴えるものが非常に強いという感じがいたします。教育出版のほうは、細かい写真をどちらかというとたくさん使っている、そういうような工夫がございます。細かい写真をたくさん使っている。それから、教育芸術社のほうは、大きな写真を使って非常に迫力があるといいましょうか、訴えるものがより強いという、そういう意見が先生方から出ておりました。レイアウトが非常に見やすく、統一感があるというような御意見が非常に多かったようです。それから、調査員以外の先生方、全38校の先生方が書かれた意見も全部取りまとめて読ませていただきましたけれども、大体同じような意見が多かったです。

それから、重点項目の2点目、「選曲・構成」という面につきましては、両社とも特段問題

があるわけではございません。両方とも大変よくできていると思いますが、ただ、構成の仕方というか、そういうところで、鑑賞のところのまとめできちっと1つのところにまとめて位置づけているといえますか、それから、音楽の場合は、要するに楽語といえますか、楽典と言ったほうがわかりやすいかもしれませんが、音楽の楽典的なものを後ろのほうに1カ所にまとめて、きれいにレイアウトしてやってあるところが、教育芸術社のほうが非常に見やすいという意見が多かったような気がいたします。

それから、音楽の授業といえますのは、週1時間しかございませんので、1時間の中でいろいろやるのがたくさんあるんですが、のんびりやっていますととてもとてもやり切れませんので、例えば楽曲、鑑賞などいろいろございますが、その解説を子どもたちにわかりやすくきちっとまとめてあるほうがいいなという観点でいろいろ見ていきましたけれども、先生方の御意見としましては、教育出版のほうは少し文字が多いなという感じがすると。一方では、教育芸術社は解説そのものが非常にわかりやすくポイントを押さえているので理解しやすいというような先生方の御意見が多かったと思います。

それから、少し前後してしまうかもしれませんが、調査項目の「内容」のほうからですが、教育出版のほうは最近の曲を取り上げているというのが教育芸術社とちょっと違うかなと感じております。最近の曲といえますのは、どのぐらいを最近というのかわかりませんが、例えば、「島唄」だとか「涙そうそう」といった、新しいというか、最近の曲を載せまして、中学生あたりが取りつきやすい教材の配列になっていると感じます。教育芸術社のほうは、今までと違って曲が教科書の2・3年上下巻が大幅に入れかわっているようですけども、逆にカリキュラムが非常に組みやすいようにつくられていていいという御意見が多かったです。それから、教材の取り扱いが適切で資料が工夫されております。挿絵だとか見出しなどに非常に工夫がされているのでいいなという御意見が多かったようです。

それから、「構成及び分量」ですが、音楽の教科書の中には楽譜がたくさんありまして、その中に鑑賞の教材が載っております。大体鑑賞の教材はメインテーマの楽譜がそれぞれ載っておりますけれども、教育出版のほうは、例えばベートーベンの第5番運命だとか、そういうものの楽譜が非常にたくさん載っているんですね。教育芸術社は載っていない。だから、載っているからいいという御意見もありましたし、こんなにたくさん載せる必要がないという御意見もありましたので、賛否両論といいたいまいしょうか、それぞれ皆さん音楽の先生方でも、いいという方も、そこまで必要じゃないんじゃないかという先生もいらっしゃいますので、

非常にそのあたりの判断が難しいところでございます。それから、教育芸術社のほうは、構成のところ、今までと少し違うかもしれませんが、「音楽研究室」だとか「step up」などのコラムを掲載しておりまして、そのところが、全38校の先生方の御意見を見ましてもなかなか好評だったような気がいたします。

それから、「使用上の便宜」という観点ですが、これは中身に直接係わる部分ではございませんが、教育出版の表紙が少々小学生向きといいましょうか、いつも何かそういう感じなので、どうしてなんだろうということが今回の話題になってしまいました。それから、折り込みのページなどが今度工夫されてついております。これは、なかなかいいという意見と、破れやすいからだめだという意見と、いろいろありました。教育芸術社のほうは、落ち着いた装丁といいましょうか、教科書を比べていただくとわかりますが、何か教科書らしいというような感じの表紙で、中身のほうもレイアウトが、私の感想もありますが、全体の先生方の感想が、やはりレイアウトが非常にいいので非常に見やすいということでございます。それから、カラー写真が大きくインパクトがありますので、非常にわかりやすい。器楽でもそうですけれども、非常に大きくて迫力があって、視覚に訴えるところが非常に強いという感じを持ちました。

以上が一般のほうです。

名取委員長　ただいま検討委員会からの報告は終わりました。

音楽（一般）についての御質疑はございますか。

齋藤委員　発声の仕組みというような内容が載っていますよね。私なんかは、このあたりを学習していくと他の教科との兼ね合いがあるのかなと、例えば生物学的な部分に少し入っていけるかなという感じがしましたが、そういう発展性があるのかどうか。逆に、あまり重要視しなくてもいいのか。私はおもしろいなと思ったんですが、そのあたりは意見としてはありませんでしたか。

千々岩音楽調査部会部長　おっしゃるとおり音楽の教科書には大体発声のことについて載っております。音楽の教師というのは声楽出身ばかりではなくて、器楽専門の方、ピアノ専門、ラップ専門など、さまざまいらっしゃいますので、そういった声楽の専門でない方にとっては、変声期のことだとか発声のことだとか、そういうことが具体的に書いてあるほうが非常に助かると思います。やっぱり重要だと思います。

名取委員長　ほかに。

小田原委員 最近の歌があるという話がありましたけれども、見方によっては偏りがあるというふうにも言えるのかどうか。また、例えば同じ作曲家の曲が教育芸術社のほうは非常に多くあったんですね。沖縄の歌が多いとか、それから、「ふるさと」の全校合唱が載っているけれども、余計なお世話というふうにならないのかどうか。そんなところを教えてください。

千々岩音楽調査部会部長 やはり音楽の先生の中でも、いいという人、よくないという人、さまざまですけれども、例えば「ふるさと」の場合は、私は「ふるさと」が大好きですから、よく歌っています。ただ、「ふるさと」は今までと少し違った観点で扱われておりまして、賛否両論ございました。どちらかといえば、音楽の先生方、調査員の方からお話を聞きましたところによると、いいという評価が多かったです。それから、教育出版に載っている最近の歌というか、ポピュラーな歌といたしますか、これらは子どもが取りつきやすいとおそらく取り扱うのだと思います。「鳥唄」だとか「涙そうそう」などはよくテレビで歌われていますが、こういう歌を教科書に取り上げてくれて、大変うれしいということを行っている先生方も大勢いらっしゃいます。一方で教育芸術社のほうは、こういった新しい歌謡曲といたしますか、そういう分野の曲はないんですが、どちらかといえば合唱のほうですね、どこの学校も今、合唱を夢中になってやっている関係がありますので、合唱の教材の取り上げ方に非常に興味を持っている部分がございます。各社それぞれ特色がありますので、いい悪いは言えません。

名取委員長 ほかによろしいですか。

ほかに御質疑がないようでありますので、次の種目に移ります。

「音楽（器楽）」について、検討委員会から報告願います。

千々岩音楽調査部会部長 先ほど申し上げましたけど、器楽につきましても、やはり「レイアウト」と「選曲・構成」、「解説」というようなところを重点項目に掲げ、調査をしていただきました。

先ほど申しましたように、一般と同じように写真の使い方が、小さいのをたくさん使っているとか、迫力あるような大きい写真を使っているというようなところがやはり両社の違いといえます。先生方の意見はそれぞれまちまちかもしれませんが、どちらかという、やっぱり写真が大きいほうが、特に和楽器は、八王子の学校にその楽器がない学校が多いものから、どちらかといいますと写真の大きいもので訴えるような形のものというのは、先生方にとってはいいという意見が多かったようでございます。

それから、曲のほうですけれども、曲のほうは、この教科書がいい悪いいうのではなく、どちらの教科書を使ってもそれなりの曲が載っております。ただ、新しいボディパーカッションというような、気軽に、体を楽器にしてやるという、そういうようなところを教育芸術社のほうで取り上げていますので、そのあたりは先生方の目にとまったというところがあります。それから、同じく教育芸術社には、名曲のテーマというのが後ろに載っております、これについてよいというような御意見が多かったようです。

それから、和楽器だとか、いろいろ説明が書いてありますけれども、教育出版のほうも和楽器の説明に限らずいろんな楽器を取り上げておりましたけれども、いろんな奏法について細かく説明がしてありましたので、やはり声楽の先生方にとりましては、正直申し上げまして、得意とする分野じゃない部分であることも確かですので、やはり細かくいろいろ説明がきちっとしてあると非常に助かるというような御意見がありました。それから、教育芸術社のほうも、楽器一つ一つに非常に丁寧に説明がありますので、授業で使うには非常にやりやすいという御意見が多かったです。

それから、1番「内容」、2番「構成及び分量」、3番「表記及び表現」、4番「使用上の便宜」それぞれにつきましては、ここに書いてあるとおりです。要点を申し上げますと、器楽になりますと、学校では普通、アルトリコーダーというものを使いますが、両社ともその説明がきちっとされていますし、解説もされています。あえていうならば、曲についてどちらが多いとか少ないとか多少ございますけれども、やはりやりやすい曲が多いと先生方が言っていたらっしゃったのは教育芸術社のほうでした。

以上でございます。

名取委員長　　ただいま検討委員会からの報告は終わりました。

「音楽（器楽）」について御質疑はございませんか。

齋藤委員　　1点だけ。おおよそ書かれている内容で理解はできたつもりなんですけど、先ほどの理科の第一分野・第二分野と同じように、これも選択の区分として一般と器楽というのを別々に選べるようになっているんですけど、これについても仮に社が別になった場合、先生方や生徒たちに戸惑いはないですか。

千々岩音楽調査部会部長　　実は調査部会の中でもそういう意見が出てまいりまして、例えば一般がA社で器楽がB社になった場合、仮にそうなったときにはどうなんだろうかと、私が投げかけてみたりしたことがありましたけれども、以前にそういうことがあったらしいんで

すが、やはり一般と器楽は関連があるので、会社が違くと正直言ってやりにくいよねという先生方の御意見でしたですね。

小田原委員 1冊にしなかった理由というのは何かあるんですか。

千々岩音楽調査部会部長 すいません、私もよくわかりません。昔からずっとこういうふうになっていたものですから。

名取委員長 それは調べていただいて、連絡をいただければありがたいと思います。

千々岩音楽調査部会部長 そうですね、はい。

名取委員長 よろしくどうぞ。

ほかに、よろしいですか。

ほかには御質疑がないようでありますので、次の種目に移ります。ありがとうございました。

じゃあ、「保健体育」について、検討委員会から報告願います。

竹野保健体育調査部会部長 それでは、報告書に従って報告をしたいと思いますが、もう御熟読されているということで、簡単に説明をしたいと思います。

まず、保健体育の教科書というのは体育編と保健編に分かれております。一応、便宜的に体育編、保健編ということで別々の調査をいたしました。特に他意はございません。

まず「体育編」です。調査項目「内容」に関してですけれども、内容の選択ということで、体育編です。東京書籍ですけれども、非常に読みやすい。なぜ読みやすいかというと、文字数が少ないんですね。今は、読むということが苦手な子どもたちが多いので、そういう面では非常に読みやすいということが言えます。大日本図書、これは「トピックス」というものが載ってまして、非常に子どもたちが興味・関心を持てるような、そういう内容があります。学習研究社、これは小単元の最初に発問があって、それで導入しやすいという、そういう特徴があります。

続いて「保健編」です。東京書籍、これは非常にシンプルに、簡潔に重要な事項をまとめていると感じます。その反面、少し物足りなさを感じるという面もあります。大日本図書、これは非常に資料が充実しているということが特徴です。学習研究社、これは一つ一つの内容説明が具体的である。非常に生徒が興味・関心を示しやすいものになっている、そういう特徴があります。

2番目、「構成及び分量」です。「体育編」から。3社ともそうなんですが、組織配列につ

いてはほとんど同じです。大日本図書だけ少し本文と資料が入り乱れているというような感じで、少々読みにくい感じがしますが、あとはほとんど変わりません。

「保健編」ですけれども、東京書籍は先ほど申し上げましたように文字数が少ない。非常に余白が多くとってあって読みやすいんですけれども、少し物足りないという感じは否めません。大日本図書は逆に、非常に字が多いということが一つの特徴かと思いますが、そういう点で1年生にとっては少し情報量が多過ぎて、子どもによっては消化し切れない部分があるのかなというふうな特徴があります。学習研究社は、特徴としては各章の初めに「課題をつかむ」という単元の課題を明確にして考えさせたり、話し合わせたりということの問いが多くあります。それが特徴だというふうに思います。

3番目、「表記及び表現」についてですが、「体育編」の東京書籍、これは字体も大きくて非常に読みやすい。写真・資料も非常に明確に出ている。大日本図書ですが、これは先ほどから言うように文字数が非常に多いということが特徴です。多少読みづらかなかという感じがいたします。学習研究社、これは表記・表現ともに見やすい、読みやすいというふうな特徴があります。

「保健編」ですけれども、東京書籍は全体的には非常に読みやすくわかりやすい。1年生にとっては非常に入りやすいという、そういう特徴があると思います。大日本図書は本文とイラスト等のレイアウトの仕方、読みづらさがある。非常に「入り乱れている感じ」というのは、先ほどから申し上げておりますが、何か雑然とした感じがするということです。学習研究社ですけれども、図とか表・グラフ、非常に豊富に使用していて、見にくい面もあるんですけども、授業をいろんな方向に発展させられる要素を持っているという特徴があります。

4番目の「使用上の便宜」ですが、「体育編」の東京書籍、これは全体が見渡せる配慮がされていると。これは3社ともそういう配慮がされています。これは、ぱっとページを開いたときに、そのページにすべて一つのもので出ているという感じで載っているんですけども、大日本図書の場合には、先ほどから言うように非常に雑然とした感じで少し見づらいという、そういう特徴があります。

「保健編」ですけれども、これは各社ともURLが巻末に載っているか、それともそれぞれの單元ごとにあるのかという違いだけで、URLは全部載っております。それから、東京書籍の場合には、最初に発問があって、それから構成理解で導入しやすいという、そういう

特徴があります。それから大日本図書は、課題がすべて発問形式というふうな特徴があります。それから学習研究社は、「課題をつかむ」という項目でまとめられているという、そういう特徴があります。

「重点項目」ですけれども、今、子どもたちの周りに性に関する情報あるいは風俗産業等、子どもたちを取り巻く環境が非常に悪化している中で、性に対する指導がますます非常になってくるだろうということで、重点項目として「性に関する記述」入れました。同じように、薬物についても子どもたちにとっては、非常に身近な状況になっておりますので、それもあわせて2点の重点項目として「薬物に関する記述」を入れました。

1点目の「性に関する記述」ですけれども、これは第2次成長というところから入るわけですが、これは3社ともほとんど変わりません。3社ともそうなのですが、性感染症についてのところが違っているのかなという感じがいたします。東京書籍の場合には、エイズについての記述が少し簡単になり過ぎているのかなという感じがいたします。大日本図書の場合には、説明が非常に詳しく書かれているんですけども、逆に子どもにとっては情報量が多過ぎるのかなという、そういう感じを受けますし、記述が具体性に欠けているのかなというところもあります。学習研究社は、性感染症について、その実態と対応まで現状に一番近い形で具体的に示されていると感じます。それから、写真で成長の様子が表記され、大変見やすく、理解しやすい構成になっているという特徴があります。

2番目の「薬物に関する記述」ですけれども、東京書籍と学習研究社は、飲酒エタノール・パッチテストの取り扱いなど実際に手軽に実験できる、そういうものを取り扱っております。子どもたちにとっては興味深いなということが特徴です。大日本図書は、その部分は扱っておりません。それから、東京書籍で喫煙と飲酒の防止ということのロールプレイングを扱っております。ただ、これは、大日本図書も学習研究社も、ロールプレイングという言葉は使っていませんけれども、それに見合うような内容のものが載っています。あとは読んでいただければと思います。

以上です。

名取委員長　ただいま検討委員会の報告は終わりました。

「保健体育」について、御質疑はございませんか。

小田原委員　大体よく読むとよくわかるまとめになっていると思います。大変いいと思うんですが、お聞きしたいのは、例えば食生活とか性の問題は、理科の生物分野とか、あるいは

技術・家庭でもダブってくるところなんですけれども、理科も技術・家庭も逃げていうか、避けているという気がするんですが、保健体育はきちんと扱っていて、私は非常に安心した感じを受けています。そのときに、情報量が多いということがマイナス要素になるのか、資料が多いというのがマイナスになるのかということが非常に気になったんです。実際、僕はこれを見て、体育というより保健の部分で、子どもたちの生活、家庭の生活ということ考えたときに、ここの部分を頑張ってくれると八王子の子どもたちが健全に育っていくと強く思ったんですが、どうなんですかね。私は、情報量が多いほうがいいんじゃないかなというふうに思ったんですけど、どうでしょう。

竹野保健体育調査部会部長　情報量が多いことは決して悪いことではないんですけども、ただ、この教科書に載っている情報量はほんの微々たるもので、今の子どもたちは、ものすごい情報量を持っているんですね。そういう意味では、これぐらいの情報量ではそんなに問題にはならないといいますが、そんなに気にする必要はないのではないかなということが私の感想です。

細野委員　私も、保健体育の報告、非常によくわかる。こういうふうに書いてくれるといいですね。先生方に敬意を表します。それで、今の情報量の話ですけども、子どもたちはたくさん情報を持っているという話でしたけれども、それがどうつながるのかという解説がないんですね。ですから、それが書かれているのが非常に大事なんですね。

あと、この3社の中のある会社では、たばこの注意文言について非常に古いデータを載せているということでした。それでは困りますよね。7月1日から変わったんだから。その前にもう文言なんて変わっているわけですよ。そういうものが出ているところと出ていないところがある。そのあたりは少し減点だと思いますけどね。

それから、生活習慣というのはすごく大事だと思うんですけども、それと医療費の問題はとっても大事だと思うんですね。それでもまだ踏み込み方がちょっと足りないような感じがしました。でも、全体的によくまとまっていたと思います。改めて敬意を表します。

竹野保健体育調査部会部長　ありがとうございます。

名取委員長　ほかによろしいですか。

石川教育長　もう時代が大分変わっているので、こんなことはないんだろうと思いますけれども、かつては体育施設が不十分な中で雨が降ると保健をやって、あとは体育をやるという、そういうような状況があったことは事実なんですけれども、現状はどうなんでしょうね。教

科書、なかなか充実した内容が掲載されているわけだけでも、その辺、この教科書どおりの授業が展開されているのかどうか、それらの実態をちょっと教えてください。

竹野保健体育調査部会部長　実態はそれぞれ各校で違うかと思いますが、本校の場合を言いますと、保健は年間で約10時間位、週に2時間ないし3時間の授業の中で毎週行われるということではないんですね。ですから、本校では一応この期間は保健をやるというふうには決めていますけれども、ただ、やはり先ほどおっしゃられたように、雨が降ったりとか、あるいは何かの都合でグラウンド・体育館が使えないような場合に保健をやっているというのが本校の実態です。

名取委員長　はい、ありがとうございました。

齋藤委員　私はですね、正直なところ、2社について決めかねているのが私の今の状況で、先生のお話の中から何とかどっちにしようかというのを聞き出そうと、聞いていたんですけども、1つは、東京書籍の最初の写真がアテネオリンピックの写真を2ページにわたって大量に載せていますが、これは何年か後には確実に古臭くなる。4年間使うわけですからね、そこら辺の意見は調査委員会のほうから出ませんでしたか。

高橋保健体育調査部会副部長　特にそういう意見は出ていなかったかと思います。

齋藤委員　あと、やはり性教育のことについて随分いろいろと気になりながら読みましたが、学習研究社がQ & Aの方式で生徒たちの悩みについて答えているという形でよくまとまっていたと思うんですが、やはりこういうQ & Aみたいな教え方というのは効果的なんでしょうか。生徒たちの質問に答えていくという形は、話として広げやすいのか、やりにくいのかというところ。先生方にとってのやりやすさというのが、少しわからなかったものですから、教えていただければと思います。

竹野保健体育調査部会部長　これはもちろん教員によって違うと思いますが、私はQ & Aのやり方のほうがやりやすいとは思っています。ただ、人によってそれぞれやり方がありますので、教科書がそういうふうになっているからといって、必ずそれにこだわってやるということはありませんので、特に形式がQ & Aになっているかいないかということは、それほど影響は受けないかなと思います。

名取委員長　よろしいですか。

ほかに御質疑がないようでありますので、次の種目に移ります。

「技術・家庭（技術分野）」について、検討委員会から報告願います。

假屋技術・家庭調査部会部長 技術・家庭ですが、それぞれ技術分野、家庭分野あります。

最初、技術分野について副部長のほうから調査委員会の報告をしたいと思います。

五十嵐技術・家庭調査部会副部長 それでは、調査研究報告書に基づきながら御報告をいたします。

技術・家庭科は、東京書籍と開隆堂の2社で教科書を発行しております。この2社について調査検討を行いました。

調査の観点については、1番目、「内容」のところですが、東京書籍も開隆堂も基本的な事項はしっかりと押さえていると思います。東京書籍のほうは、その基本的な事項をしっかりと押さえながら、発達段階への配慮が多少なされていると思います。一つの例としては、エネルギーの有効利用ということについて一つのページを起こしております。2ページを使って説明をしております。また、「技術とものづくりの未来」ということで1ページを起こしております。生活と技術のこれからについてまとめております。それに対しまして開隆堂のほうは、基本事項はしっかりと押さえてはいるんですけども、その内容が多少専門的になり過ぎているのではないかと、技術・家庭科の授業時間数が限られている中で多少細か過ぎるのではないかというような意見が出ておりました。また、東京書籍のほうにおいては、発展・補充なども、先ほど申し上げたところも含めまして、その生徒に応じたような、早く進んだ子に対してはさらに考えさせる、深めさせるというような配慮がされておりました。その中で福祉に関する記述というものもありまして、実際に技術というものは生活の中でこういう部分で役立っているんだというような、興味・関心を持たせるような形で構成されております。それに対しまして開隆堂のほうは、写真や絵が身近にあるようなものを使用しております。身近なところから生徒たちの興味を引き起こそうとしているんだろうと思っております。ただ、図表の説明が開隆堂の場合には非常に細かく記載されているというところがあります。例えば、電源のコードなどで、コードのしんの本数まで表の中にまとめられて載っているというような部分もございました。使い方によっては非常に役立つ部分ですが、我々としては、必要ならば自分たちで資料を用意するなどすれば足り得るだろうという程度に思っております。

それから、2番目の「構成及び分量」についてですが、先ほどの「内容」のところとも関係してきます。東京書籍のほうは、基礎が丁寧に記載されていて、なおかつ疑問が解決しやすいようにまとめられておりました。開隆堂のほうについても基本的なことは詳しく記述さ

れているんですけども、そこからさらに子どもたちが疑問を持ってさらに発展的に学習できる時間があればなおいいんですが、発展的な学習ができないような内容というものも含まれているのではないかなと思いました。

それから、「表記及び表現」なんですが、これは両社とも非常によく書かれていると思います。どちらかといえば、東京書籍のほうが写真やイラストなどを活用して見やすい工夫をされていました。開隆堂のほうは、全体的に文字が多いような感じがするのと同時に、やや印刷や写真などで鮮明度に欠けているように思われる部分もありました。例えばコンピュータについての説明がされている表紙のところなどは、ぼやけているなという感じがする部分もございました。

それから、4番目の「使用上の便宜」のところですが、両社とも、新しい内容が始まるところで、これはどうしてこうなるんだろうというような問いかけをしてあります。ただ、その問いかけのやり方によって、東京書籍のほうは、ものづくりをしていったときにいろんな課題が出てくる、それに対してどうしようかという考えをさせやすいような問いかけをしていたと思います。開隆堂のほうも問いかけはしているんですが、これから学ぼうとする内容について問いかけをしている。新しい課題が出てきて、それに対してどうしようかという問いかけではなくて、内容についての問いかけの形になっておりました。

それから、5番目の「重点項目」のところでは、技術・家庭科としては、ものづくりを通して生活の基礎的な知識、技術というものを学んでいく教科だと思っております。それだけにもものづくりということが非常に大切だろうと思います。ものづくりをする際には刃物を使いますし、また、機械も使います。場合によっては熱も使います。非常に高温の熱も使います。そんなところで「安全への配慮」ということを重点項目として挙げました。それからもう1つの重点項目としては、最近やはり情報のことについていろいろ話題に上ってきております。その「情報モラルについて」を重点項目の2番目として挙げました。

1番目の「安全への配慮」ですが、これはさすがに東京書籍も開隆堂も力を入れてやっていると思います。ほとんど差はなかったんですが、数からいくと東京書籍のほうが多かったという、これは調査部会だけではなくて都の資料のほうからも出されております。

そして、2番目の「情報モラル」ですが、ネチケットと書きましたが、これは情報モラルのこととお考えください。これについても両社とも触れております。しかし、調査部会としては、このことがもっと前面に出てくればいいのではないかとというぐあいに考えた次第でご

ざいます。

技術分野についての説明を終わらせていただきます。

名取委員長　　ただいま技術分野の説明は終わりました。

何か御質疑ございますか。

齋藤委員　　私もこれ、2社、一生懸命読んで、どちらにもメリット、デメリットがあって、なかなかこれは甲乙つけがたいなというふうに悩んでいるところが事実です。やはり自分が得意としているところを重点的に読んでしまうんですが、例えば「のこぎり」ですとか、「かんな」ですとか、そういう道具の使い方などをどう取り扱っているのか、例えば「のこぎり」はまだあっても、「かんな」なんていうのはなかなか使いにくいと思うんですが、そのあたりは、すべての生徒に行き渡って「かんな」を削る授業なんていうのが実際に行われているかどうか、ちょっと教えていただいてポイントを考えたいと思っているんですが。

五十嵐技術・家庭調査部会副部長　　「かんな」の使い方については、非常に教えるのが難しいと思っております。これは最近のことだけではなく、もう10年以上前から、子どもたちの生活体験が少なくなってきたと言われる中で、「かんな」の使い方ができなくなってきたねというような話題が技術の教員の中で出されてきたと思っております。そんな中で技術の時間数が減ってきました。その中ですべての工具、我々おとなが現在使っているようなすべての工具を、その基礎的なことだけでも学ばせていくということは、難しいことは難しいと思っております。その難しい中には、やはり「かんな」というものが難しい工具の1つの中には入っております。しかし、選択の授業などがありますので、多少でも興味がある、時間的にあるという生徒については、できるだけ教えるような工夫もされているという具合に思っております。

齋藤委員　　ありがとうございました。

細野委員　　技術は2社ありますけれども、1つはモラルとか安全にかなりスペースをとっていますよね。もう1つは逆に、例えばコンピュータだと、モラルとかいうのは若干少ないんですけども、かなり専門的な説明、それから幅広く網羅していますよね。皆さんとしてはどちらのほうに重点を置かれるのか、そのあたりの御意見が欲しいんですけども。

五十嵐技術・家庭調査部会副部長　　数の面からいきますと、モラルに関しては28カ所に対して21カ所というような数です。この数の差が大きいかどうかということなんですが、いずれにいたしましても、東京書籍にしても開隆堂にいたしましても、モラルの点について

は触れていることは間違いなく触れております。ただ、我々としては、現在の世の中の状態というものが有りますので、さらにこれを前面に出して教えていくことが必要だろうと思っておりますので、どちらの教科書になったといたしましても、この点についてはもっと力を入れて教えていくことが必要だろうと思っております。

細野委員　確かにそうです。つまり、コンピュータのネットワークとか、インターネットというのはどういうふうになっているとか、ハードウェアがどうなっているかについて、この2つを比べると、かなり書き込みがたくさんある教科書とそうでない教科書がありますよね。違うと思うんですが、どう思いましたか。やはり、違いますよね。そうすると、皆さんが教えるときに、例えばコンピュータの分野だったら基礎的なところがかなり広範囲にきちり書かれているほうがいいのか。あるいは、いや、それは少しいいよ、むしろ情報モラルの問題が非常に大きい問題だから、ある程度基礎的な部分の網羅性を犠牲にしても、モラルの方が重要なんだよとなるのか。どちらの意見を持っていらっしゃるのか、それをお聞きしたいんです。

五十嵐技術・家庭調査部会副部長　コンピュータの基本的な構成といいますか、技術的なものについては、どんどん変わってくるだろうという気がいたします。しかし、その変わってくる中で一番大切なのは、やはりコンピュータの使い方、いわゆるモラルの部分だろうと思っております。したがって、我々の調査部会の中で話をした中から推測するには、やはりモラルということを中心に考えているだろうと思っております。

小田原委員　学校の先生は、技術のものづくりの部分と情報・コンピュータの部分というのは同じ先生が教えるわけですよ。ところが、この教科書、両方ともそうなんですけれども、執筆者が違う感じがするんです。その違いが「ネチケットの部分を基本事項のはじめに位置づけてほしい」という報告書の指摘にあらわれているように私は読み取ったんです。読み取りの問題なんですけれどもね。正直、どうなんですか、ものづくりの部分と情報・コンピュータの部分を音楽とか理科と同じように2分冊にしたほうがいいのかという感じを受けませんでしたか。

五十嵐技術・家庭調査部会副部長　そこまでは私どもは考えてはおりませんでした。技術分野の中でのいわゆる情報の領域とものづくりの領域とで別々のものという考え方はしたことがございません。

小田原委員　もう1点。開隆堂は、専門的で細かく記載されていて文字が多いというマイナ

ス要素の指摘がありましたけれども、むしろ時間数の少ない中でどちらがいいのかといったら、私は情報量が多いほうがいいんじゃないかなと、そういう印象を受けるんですよ。それから一方で、東京書籍のほうは技術とものづくりの単元を立てているというのがいい点というふうになっていますけれども、開隆堂のほうは、冒頭の三つ折りの部分で再生と再利用の話が出てきて、保守点検のところでは循環型社会の話が出てきているし、その後も共生というような形で繰り返し示しているわけですが、改めて章をつくらなくてもいいという判断があるだろうというふうに思うんですけれども、こちら辺はどちらがいいというふうなことは言えるのでしょうか。

五十嵐技術・家庭調査部会副部長　我々の調査部会の中では、やはりしっかりと新しい章を起こすような形でまとめられているほうがいいだろうと考えました。開隆堂、見開きの部分のところで確かに書いてあるというのは事実なわけですが、やはり一たん勉強をして、その後、ものづくりについて考えるというときには、その流れとして後ろ側にあったほうがいいだろうと。1つの章としてあったほうがいいだろうと考えております。

名取委員長　はい、ありがとうございます。ほかによろしいですか。

ほかにはご質疑がないようでありますので、次の種目に移ります。

「技術・家庭（家庭分野）」について、検討委員会から報告願います。

假屋技術・家庭調査部会部長　家庭分野についてお話し申し上げます。最初にお断りしておきますが、部長、副部長とも技術の出身であります。したがって、私のほうで家庭のほうを中心に話し合いの中に入りながらこれをまとめたというのが現状であります。そのことを踏まえましてお話をしたいと思っております。

技術分野とも共通する部分として、やはり家庭分野におきましてもものづくりということは大きな1つのポイントになるわけです。そこで、私たちの日常生活の中で、食事をつくって、家族で、地域で、みんなで楽しむ、これがまず1つの大きなポイントかなと考えております。そして2つ目は、子育てを楽しむと。中学生の場合は子育てというんじゃなくて、そういった状況を知ることになるわけですが、3つ目として自分のセンスに合わせてファッションを楽しむ、こういった大きな要素があります。そしてもう1つの大きな要素として、快適な生活空間を楽しむ、こういったことが考えられます。したがって、技術分野とも共通して、やはりものづくりを楽しむんだと、こういうことがこの教科の1つの大きな流れであるだろうと思っております。

そういったことに基づきまして、話し合いが出た部分についてまとめました。まず東京書籍のほうなんです、各小单元ごとに全部、「学習の目当て」というのをつくってあります。大きい単元の最初のページに「学習の目当て」というのを出してあるんですが、1つの時間の中で取り扱うには、小单元ごとに「学習の目当て」はつくったほうが授業者としてはやりやすいかなという部分はございます。そして、その「学習の目当て」の後、一番最後に「学習のまとめ」とあるわけですが、学習のまとめ、東京書籍の「使用上の便宜」のところに触れてありますが、東京書籍のほうは自己評価を柱にして生活を見直す視点という形で学習のまとめがなされている。現在、八王子市内の技術・家庭科の評価方法を見ますと、評価の方法としてまだ自己評価がそう多く使われているわけではありませんが、自己評価というのは今後の評価方法の中で大きなウエートを占めてくる。それも自分の生活を見直す、そういった大きな視点でつくられている部分がかかなりたくさんあるということが特徴かなと思っております。

そして、もう1つ感じたところが、資料の出典が1つ問題になってきます。具体的には、東京書籍の20ページ、開隆堂の24ページに、体の成分というのが同じタイトルで出ているんですね。東京書籍のほうには体の成分、水分が56%、開隆堂のほうには66%、10%の差があるんですね。何も知らない子どもたちがこの数字だけを比較したら、どちらを信用していいかわからない。ところが、東京書籍のほうには、その表の下に「基礎栄養学より作成。数値は成人値」というふうに出典がはっきり書いてあるんですね。開隆堂のほうには、そういう表示がない。私の想像するところで見ると、おそらく中学生の平均値かなというふうに感じているわけですが、やはり使う側からいったら、資料の出典、正確な数値というのは、こういったところでしっかり出してほしいなと感じております。東京書籍の資料の出典がすべてしっかりしているということでもありませんが、私が見た限りでは、ここの部分で、どうなのかなという感じは持ちました。

次に開隆堂のほうですが、技術分野のほうでも話がありましたが、この報告書には「系統的・専門的」という言葉が使っているんですが、これも比較してみたいと思うんですが、東京書籍21ページ、開隆堂25ページに、栄養素の説明の中で炭水化物の説明が全然違うんですね。開隆堂のほうでは、脳のエネルギー源になるとか、肝臓や筋肉に蓄えられているとか、また、血糖値の調節もいろんなことまで糖分がやるんだといろいろ書いてあるんですが、実際に家庭的な分野からいってここのところまで掘り下げる必要があるかどうか、ちょっと

私にはわからないところですが。

もう1つ、開隆堂のほうでは、発展的なまとめのところで栄養士とか医師のメッセージが入れているんですね。ですから、ある程度知識が蓄えられた段階で、こういった専門家の立場の部分としては子どもたちも非常に興味・関心がわく部分もあるのかなという感じは持ちました。

それと、開隆堂のほうでもう1つ大きな特徴的なのは、最後の単元のまとめのところで「学習を振り返ろう」というところ、これも東京書籍にもあるんですが、開隆堂の場合には、この「学習を振り返ろう」という部分の内容が、知識・理解がかなり重点に置かれているかなという感覚を私は持ちました。

もう1つ、専門的・系統的という部分でお話し申し上げますと、開隆堂の各単元の冒頭に「話し合ってみよう、考えてみよう、調べてみよう」、こういうような導入をしている。では、実際に最初の単元の最初の段階でこういうテーマをぼんと出しまして、これで話し合ってみよう。それがどの程度できるかという部分、ちょっと私も家庭的な分野については専門でないのわかりませんが、かなり難しい部分もあるかなという感じは持ちます。先ほど技術分野のほうで著者の部分のお話があったわけですが、開隆堂の部分については、大学の教授並びに附属中学校の教諭、こういった方々が中心書かれている。やはり附属中学校の先生方は附属中の子どもたちのことがかなり意識にあって、こういうところの授業の進め方もなされている部分があるのかなという、これは憶測なんです。東京書籍の場合は、都内在住の中学校の先生方もかなり書かれていますので、そういった面で八王子市内の先生方にとっては使いやすさという部分ではそういった部分が出てくるのかなという感じを持ちました。

以上で報告を終わります。

名取委員長　　ただいま検討委員会の報告は終わりました。

「技術・家庭(家庭分野)」について、検討委員に御質問はございますでしょうか。ございませんか。

小田原委員　　専門家じゃないというふうに言われたので聞きにくいんだけど、家庭科は国会で問題になりましたよね。その件についてはどういうふうに皆さんはお考えですか。

假屋技術・家庭調査部会部長　　調査部会の中でその部分については一切触れておりません。申しわけございません。

名取委員長　　私から1つ。先生がもし教科書を選ぶとしましたら、左側の「調査の観点」の

中で最も重要視する部分はどこでしょうか。

假屋技術・家庭調査部会部長　やはり、「ものづくりは楽しい」、これが出発点だと思いますので、この部分かなと思います。

名取委員長　それは1番から5番までの何番でしょうか。

假屋技術・家庭調査部会部長　やはり項目でいいますと1番「内容」になろうかと思います。

名取委員長　「内容」ということですね。はい、ありがとうございました。

ほかにどうですか。よろしいですか。

ほかに御質疑はないようであります。

本日予定しておりました種目の質疑はすべて終了いたしましたので、ここで無記名で各委員の意見を集約したいと思います。

〔各委員用紙記入〕

名取委員長　それでは、事務局は記入用紙を回収・保管をしていただきたいと思います。

名取委員長　続いて、報告事項に入ります。

スポーツ振興課から順次報告願います。

山本スポーツ振興課長　それでは、お手元にございます資料で御説明させていただきます。

市民体育大会もことして第59回を迎えております。36競技を開催するところですが、お手元の資料では33競技が入っておりますが、残りの3競技については、野球については既に実施しております。また、市民水泳大会は9月1日に法政大学のプールをお借りして実施することとしております。また、その次の週、9月18日には陸上競技選手権大会を実施いたしますが、この2点については、締め切りの関係で既に募集をしているところがございます。なお、開会式については、この市民体育大会、9月4日(日曜日)に市民体育館で実施いたしますので、また御連絡のほうをさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

名取委員長　ただいまスポーツ振興課の報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

齋藤委員　ちょっと教えてください。八王子で生まれた競技としてネオテニスというものが随分盛り上がってきて、この間も教育委員会のほうの主催で大会が開かれたと思うんですが、これは市民体育大会には種目として入ってこないのかということが1点。あと、今度、フッ

トサルの専用クラブができますよね。そのためにも、このあたりからPRも兼ねて何か大会ができないのかというのが1点。見させてもらってその2つが入っていないのは寂しいなという感じを持ちました。

山本スポーツ振興課長　この市民体育大会はNPO法人八王子市体育協会に対して委託をしております。その傘下の競技団体のスポーツ大会でございます。1点目のネオテニスにつきましては、ことしの1月にレクリエーション協会のほうに加盟をいたしました。そこで、スポーツ・レクリエーション大会という分野の中で実施するということになりますが、今年度はまだ予定はされておられません。ただ、ネオテニス協会としては設立記念の大会を首都大学東京で実施する。これについては9月25日を予定しております。既に協会のほうで進めているところでございます。

また、もう1点のフットサルにつきましては、サッカー協会が所管しております。サッカーについてはこちらの競技もでございますが、フットサルについてはサッカー協会のほうで冬の大会として実施しております。お正月、1月から3月にかけて500団体を超える団体、6,000人ぐらいが参加しております。いろんな会場を使って実施しておりますので、教育委員会はそれを後援するという形で対応しております。

以上でございます。

名取委員長　ほかに。

小田原委員　この位置づけというのはどうなっているんですか。位置づけというのかな、要するに市民体育大会に対して市民文化祭というのがあるけれども、あくまでもそこまでのものであって、国民体育大会、都民大会、市民大会という、そういうような流れの一つではないということよろしいですか。

山本スポーツ振興課長　はい。市民体育大会と先ほどのスポーツ・レクリエーション大会については、市民が1年間さまざまな競技の練習を重ねてきた、その成果を発表する機会として年1回開催をするという趣旨で実施しております。国民体育大会につながっていくものについては、それぞれの競技団体が別途大会を実施しております。その中で次に都大会、次に国体というような形での動きになります。なお、国体についてはもう少し形が厳しくなしまして、関東全体の中で何チームかが出ていくということで、ことしは八王子も野球と山岳関係、それを8月にかけて実施することになっております。会場として提供しております。

名取委員長　よろしいですか。

齋藤委員 確認ですけれども、これは教育委員会が主催なんですか。

山本スポーツ振興課長 教育委員会主催でございます。八王子市教育委員会主催で、NPO法人八王子市体育協会に委託しているという形でございます。形の上では教育委員会が主催で実施しております。

小田原委員 例えば馬術だとか射撃とかありますよね。サッカーとかテニスなんていうのは競技人口も多くていいと思うんだけど、馬術とか射撃なんかは競技人口少ないですよね。むしろそういう競技にこそ金をかけるなんていうようなことは考えませんか。

山本スポーツ振興課長 やはりどれに力を注ぐかというのはなかなか難しいところがありまして、それぞれの団体も加盟人数が二、三十人というところから1,000人単位のところもあるわけです。そういうのに対して同じような金額での委託については疑問も出されておりますが、やはり体育協会全体としては、特にそういう差をつけずに実施していくということでお話をいただいています。なお、八王子市内の会場について、会場費は市が負担するということになっておりますが、先ほどの馬術ですとかゴルフだとか、そういうものについてはそれぞれ会場費等については自分たちが負担する。参加者負担という形でおこなっています。

名取委員長 よろしいですか。

はい、どうもありがとうございました。

名取委員長 次に、体育館から報告願います。

福田生涯学習スポーツ部主幹 八王子市体育館条例施行規則の一部を改正する規則設定に関する事務処理について、口頭で報告をさせていただきます。

平成17年第2回市議会定例会最終日6月27日に、第71号議案 八王子市体育館条例の一部を改正する条例設定についてが可決されました。それに伴いまして、条例施行規則の一部改正の事務処理について、前回の教育委員会定例会の協議に基づきまして、平成17年6月30日付で教育長が臨時に代理をいたしました。

以上、報告をいたします。

名取委員長 ただいま体育館の報告は終わりました。

本件について御質疑はございますか。

いいですね、話があったということで。はい、ありがとうございました。

名取委員長　ほかに御質疑はないようであります。何か報告事項等ございますか。

坂本学校教育部長　委員長、1件、施設整備課から報告をさせていただきます。

名取委員長　それでは、どうぞお願いします。

穂坂施設整備課長　今、大きな社会問題となっておりますアスベストの学校施設対応について、口頭にて報告をさせていただきます。

新聞報道でもご存じかと思えますけれども、アスベストの有害性が問題となっております。さまざまな情報がもたらされ、市民が大変不安に感じている中、学校施設に使われているアスベストについても、昭和62年当時、文部省が実施した公立学校のアスベスト実態調査で、天井などのアスベスト含有の吹きつけ剤10製品について調査対象外としていたことが明らかになりました。当時、文部省の指導のもとに、本市でも小学校22校、中学校7校に対してアスベスト対策を行った経緯がございますけれども、学校や私どものほうに不安の声も寄せられており、新聞報道の翌日から施設整備課職員と建築課の職員と連携いたしまして、55年以前に建設された小・中学校79校と、念のため57年まで工事をしてきた8校について対象を広げて、合計87校について調査を行っております。今回は緊急調査ということで、学校内の吹きつけされているところの確認をし、疑わしい箇所の特定を行っているところでございます。この現場調査については本日中に終了する予定でございます。これら調査結果をまとめ、疑わしい箇所については来週中にすべて成分分析調査を専門業者に委託をする予定でございます。この結果、アスベストが万一含まれていると判明した箇所で緊急性がある場合には、即刻、除去を含め、対策を講じる予定であります。緊急性がない場合でも計画的に対策を講じていく予定でございます。

なお、市全体でもアスベスト連絡協議会を環境部を中心に設置をいたしまして、先日、第1回の協議会を開催いたしました。その中で、市の公共施設についても学校の調査が終了後、他の公共施設について調査をすることとなりました。また、その中で、市内の民間企業の工場でもアスベストを取り扱っている事業所が1カ所あり、健康被害については発生していない等の報告がございました。今後も庁内の情報の共有化を図っていくということで、適宜開催する予定ということになっております。

報告は以上でございます。

名取委員長　ただいま施設整備課の報告は終わりました。

本件について御質疑はありませんか。

齋藤委員 素早くいろいろと調査していただいてよかったと思います。このことは市民にも非常に高い関心事になっていると思いますが、今のこのような状況をどうやって、学校関係でいえば保護者だとか一般市民というか、状況をホームページ程度ですか、どうやって知らせていくかという、現状を。

穂坂施設整備課長 とりあえず、あした校長連絡会というのがございまして、その中で私どもで資料をまず1つ、アスベストについてというイロハから情報提供したいということと、それから、今、現状調査をしているんだということで、ただ、アスベストがあるからといって、あまり不安を駆り立てるような言動は慎んでいただきたいということをお知らせしようかなというふうに思っています。今、非常に危ないと言われているのは、アスベストの飛散性というんでしょうか、その部分ですので、町中にはアスベストがいろんなところに使われているということでございますから、学校が特に不安がられるということも非常に困りますので、その辺のところをあした注意喚起したいなというふうに思っております。

齋藤委員 一応じゃあ、校長先生のほうにそういう御注意をして、あとは、一般的にはホームページに何か記載するとか、そういうことは別段しないというような状況ですか。

穂坂施設整備課長 今、調査しているということもできるだけ早目に公開はしていきたいというふうに思っていますけれども、今ちょっと調査に追われておりまして、いつホームページに記載できるかとか、そういうことまでまだ検討できておりませんが、できるだけ情報は早目に伝えたいというふうに思っています。

名取委員長 よろしくお願ひしたいと思います。

穂坂施設整備課長 はい。

名取委員長 ほかによろしいですか。

ありがとうございます。

ほかには何か報告事項等ございますか。

坂本学校教育部長 特にございません。

名取委員長 以上で公開での審議を終わりますが、委員の方から何かございませんか。よろしいですか。

ないようですので、引き続き非公開審議を行いたいと思います。

恐れ入りますが、傍聴の方は退室願います。

【午後5時20分閉会】